

令和7年度シマフクロウ保護増殖検討会

令和8年2月25日（水）09:30-12:00
於 まなぼっと幣舞 多目的ホール

議事次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
 - (1) 令和7年度シマフクロウ保護増殖事業実施結果及び令和8年度実施計画について
 - (2) 関係者からの報告
 - (3) シマフクロウの生息環境を拡げる取組について
 - (4) WG等の改組について
 - (5) その他
4. 閉会

令和7年度シマフクロウ保護増殖検討会配布資料一覧

- 議事次第、配付資料一覧（本資料）
- 出席者名簿
- シマフクロウ保護増殖検討会設置要領
- シマフクロウ保護増殖事業計画

<注意事項>

シマフクロウ保護増殖検討会の公開に当たっての留意事項

【資料のルール】

生息地情報等保護の観点から、資料には以下の2種類があります。

検討会関係者限り・非公開：一般に公表することを前提としていない情報とし、非公開。検討会関係者（「関係者」は対面参加者のみ。さらに会議後回収）のみに配布。

何も表示のないもの：公開して差し支えない資料

※種類の別について、資料一覧と各資料の右肩に記載していますので御留意ください。

※ 関係機関の皆様におかれましては、本検討会資料以外におきましても生息地情報の保護に御理解いただきますようお願いいたします。御不明な点は環境省まで御相談ください。

(1) 令和7年度シマフクロウ保護増殖事業の実施結果及び令和8年度の実施計画について

●北海道地方環境事務所・釧路自然環境事務所

資料1-1 令和7年度シマフクロウ保護増殖事業実施結果

資料1-2 令和7年度シマフクロウ域内保全・域外保全意見交換会の概要

参考資料1-1 シマフクロウ生息地拡大に向けた環境整備計画に係る全体目標の概要

参考資料1-2 令和7年度シマフクロウ標識調査等結果

(検討会関係者限り・非公開・会議後回収)

参考資料1-3 令和7年度シマフクロウ給餌場一覧

(検討会関係者限り・非公開・会議後回収)

参考資料1-4 令和7年度シマフクロウ給餌状況及び計画（令和8年1月現在）

(検討会関係者限り・非公開・会議後回収)

参考資料1-5 シマフクロウリーフレット改訂稿

資料2 令和8年度シマフクロウ保護増殖事業実施計画（案）

●北海道森林管理局

資料3 令和7年度シマフクロウ保護増殖事業実施報告及び令和8年度事業計画（北海道森林管理局）

●釧路市

資料4 令和7年度動物園の飼育下個体群における経過報告および令和8年度実施計画（案）

参考資料4-1 シマフクロウ家系図

参考資料4-2 シマフクロウ飼育状況

●根室市

資料5 令和7年度シマフクロウ保護増殖事業実施報告及び令和8年度事業計画（案）

●公益財団法人日本野鳥の会

資料6 日本野鳥の会のシマフクロウ保護活動（2025~2026年度）

（2）関係者からの報告

●北海道開発局

資料7-1 （概要版）令和7年度シマフクロウ保護に関わる事業実施状況および令和8年度の実施計画（北海道開発局）

（検討会関係者限り・非公開）

資料7-2 令和7年度シマフクロウ保護に関わる事業実施状況および令和8年度の実施計画（北海道開発局）

（検討会関係者限り・非公開）

●公益財団法人日本鳥類保護連盟

資料8 令和7年度（公財）日本鳥類保護連盟の活動について
（日本鳥類保護連盟）

●特定非営利活動法人シマフクロウ基金

資料9 特定非営利活動法人シマフクロウ基金 令和7年度活動報告
（特定非営利活動法人シマフクロウ基金）

●特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

資料10 2025年度シマフクロウ・エイドの保護・保全事業等にかかる実施報告
（NPO法人シマフクロウ・エイド）

●竹中委員

追加資料 生息数増加の状況下における、保護増殖事業の根幹事業（標識・給餌・巣箱）に関する留意事項

(3) シマフクロウの生息環境を拡げる取組について

資料 11-1 (3) シマフクロウの生息環境を拡げる取組について 議論のイメージ

資料 11-2 道東における生息環境整備の取組について

資料 11-3 地域をつなぐーシマフクロウが自然状態で安定的に生息できる環境の保全・再生ー (北海道森林局)

(一部 検討会関係者限り・非公開)

参考資料 11-3 コタンコロカムイを呼び戻せ！

(一部 検討会関係者限り・非公開)

資料 11-4 河川を基軸とした生態系ネットワークの形成について (北海道開発局)

(検討会関係者限り・非公開・資料配布なし)

(4) WG 等の改組について

資料 12 シマフクロウワーキンググループ等の整理 (案) について

(5) その他

資料 13 環境研究総合推進費：生殖細胞保存による希少猛禽類の域外保全の推進

令和7年度シマフクロウ保護増殖検討会 出席者一覧

※下線・網掛け:WEB参加予定者

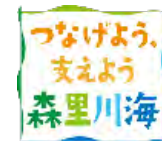
	氏名	所属・役職
検討委員	渡邊 綱男	一般財団法人自然環境研究センター 上級研究員
	齊藤 慶輔	株式会社猛禽類医学研究所 代表
	竹中 健	シマフクロウ環境研究会 代表
	中川 元	公益財団法人知床自然アカデミー 業務執行理事
	早矢仕 有子	北海学園大学工学部生命工学科 教授
	藤巻 裕蔵	帯広畜産大学 名誉教授
	山本 純郎	特定非営利活動法人北海道シマフクロウの会 会員
	藤本 智	釧路市動物園 飼育展示係 総括係長
関係行政機関		北海道森林管理局 計画保全部 計画課
		北海道森林管理局 十勝西部森林管理署
		北海道森林管理局 十勝西部森林管理署 東大雪支署
		北海道森林管理局 十勝東部森林管理署
		北海道森林管理局 根釧西部森林管理署
		北海道森林管理局 根釧東部森林管理署
		北海道森林管理局 網走中部森林管理署
		北海道森林管理局 網走南部森林管理署
		北海道森林管理局 上川南部森林管理署
		北海道森林管理局 日高北部森林管理署
		北海道森林管理局 日高南部森林管理署
		北海道 環境生活部 自然環境局 自然環境課
		北海道開発局 開発連携推進課
	根室市 水産経済部 農林課	
関係者		公益財団法人日本野鳥の会 自然保護室
		公益財団法人日本鳥類保護連盟
		特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド
環境省		北海道地方環境事務所 野生生物課
		北海道地方環境事務所 大雪山国立公園管理事務所
		北海道地方環境事務所 大雪山国立公園管理事務所 上士幌管理官事務所
		北海道地方環境事務所 大雪山国立公園管理事務所 東川管理官事務所
		北海道地方環境事務所 新ひだか自然保護官事務所
		北海道地方環境事務所 えりも自然保護官事務所
		北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
		北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 ウトロ自然保護官事務所
		北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 羅臼自然保護官事務所
		北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 釧路湿原自然保護官事務所
		北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 阿寒摩周国立公園管理事務所
	北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 阿寒摩周国立公園管理事務所 阿寒湖管理官事務所	
その他関係者およびオブザーバー		株式会社猛禽類医学研究所
		特定非営利活動法シマフクロウ基金
		公益財団法人知床財団
		シマフクロウ調査員
		北海道博物館
		根室市歴史と自然の資料館
		NPO法人エトピリカ基金
		旭川市旭山動物園
		札幌市円山動物園
		長野市茶臼山動物園
		那須どうぶつ王国
	秋田市大森山動物園	



令和7年度シマフクロウ保護増殖事業 環境省実施結果

北海道地方環境事務所

釧路自然環境事務所



令和7年度事業結果の概要

- ヒナの標識羽数が、これまでで最多となる61羽を記録した。
- 初めて高病原性鳥インフルエンザへの感染が確認された。
- 標津地域における生息環境整備について、関係者勉強会を開催するなど、取組を進めた。
- イラストパネル解説テキストやルールカードなど、さまざまな普及啓発資料を製作した。

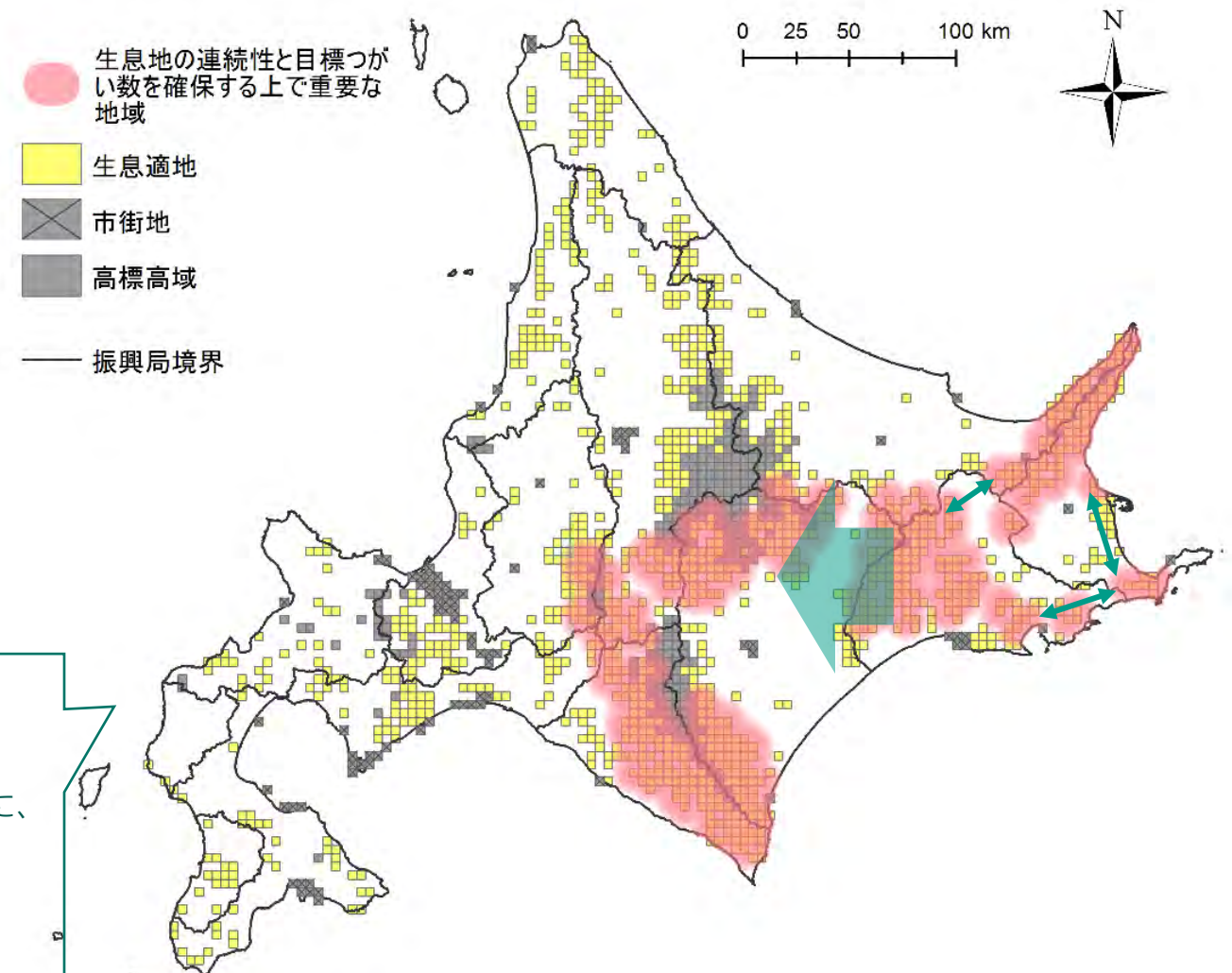
取組の方向性

- ✓ シマフクロウヒナの標識数は増加傾向にあり、個体数や分布も拡大傾向とみられる。
- ✓ さらなる個体数増加や分布拡大のため、これまで実施してきた「増やす取組」などから、シマフクロウの生息環境を地域や多様な主体とともに再生する「拡げる取組」へ取組を拡充しているところ。
- ✓ 特に、各地域個体群における個体数の増加や、道北、道央や道南への分布拡大、道東における個体群同士の交流、そのほか給餌に頼らない環境づくりが重要である。また、将来的には人工巣箱に頼らない環境づくりも見据える必要がある。

◆ 「シマフクロウ生息地拡大に向けた環境整備計画に係る全体目標（H27年3月）」 ◆

「知床」「根釧」「大雪山系」「日高山系」の4つの既存の生息地を中心に、各個体群のつがい数「24つがい」※以上

※ 解析のためのデータが十分でない点や、絶滅可能性が完全に排除されるつがい数ではない点に注意
詳細は参考資料1を参照



つがいの生息状況調査・ヒナの標識調査

- 標識実績のあるつがい数は、昨年度に比べ各地域で増加した。※調査員による自助努力も寄与
- ヒナの標識羽数が、これまでで最多となる61羽を記録した。うち、オスは22、メスは28、試料なしが11羽だった（血液サンプル）。

振興局・地域名	振興局						地域個体群				計
	釧路	根室	オホーツク	十勝	日高	上川	知床	根釧	大雪山系	日高山系	
つがい数	20	33	17	15	8	3	33	33	18	12	96
(参考) R6年度つがい数	18	32	14	15	7	2	32	30	16	10	88
(参考) 目標つがい数	-	-	-	-	-	-	24	24	24	24	-

図1 ヒナの標識実績のあるつがい数 ※確実に存在が重複していないと確認できることから「ヒナへの標識実績」を判別の一つとしている

振興局・地域名	振興局						地域個体群				計
	釧路	根室	オホーツク	十勝	日高	上川	知床	根釧	大雪山系	日高山系	
標識ヒナ数	16	18	7	12	4	4	16	23	15	7	61
給餌つがいから生まれたヒナ数	4	6	0	3	1	0	2	8	3	1	14
人工巣箱で生まれたヒナ数	10	17	5	3	3	0	13	17	5	3	38

図2 令和7年度ヒナの標識結果

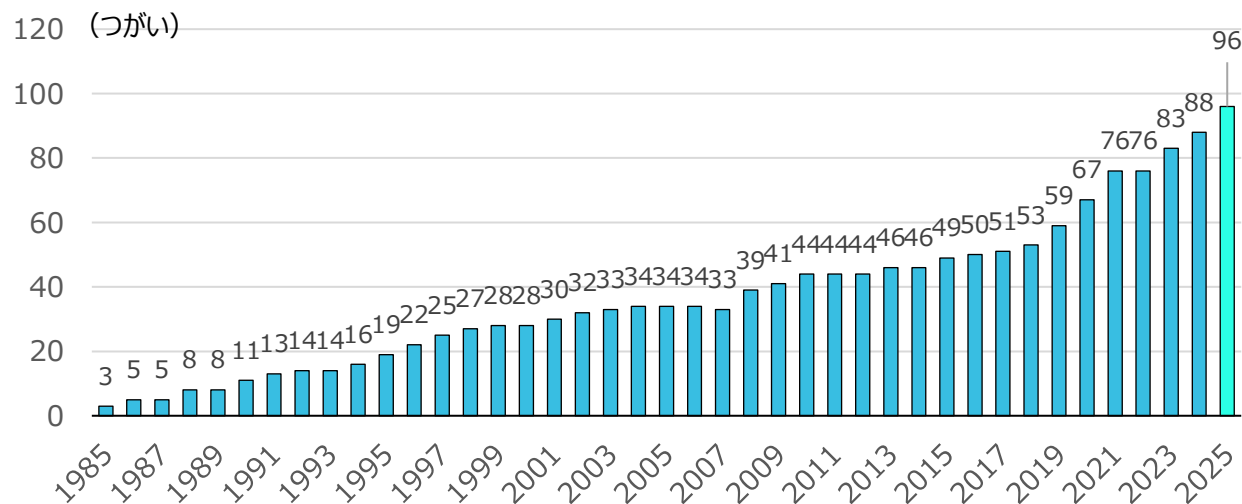


図3 標識実績のあるつがい数推移

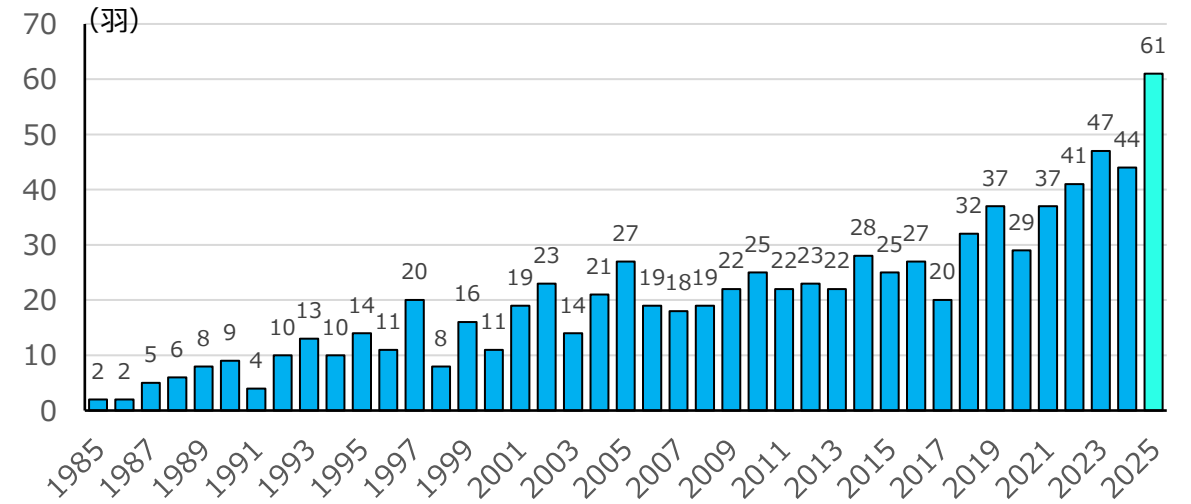


図4 標識ヒナ数の推移

(1) 巣箱設置等の状況

- 新規設置を7か所、その他に撤去9か所を含むメンテナンス作業を52か所を実施（令和7年9月4日～12月31日）。
- その他主体との協働事業において、新規設置4か所。

	現存 巣箱数	使用状況		撤去済み巣箱 (架替含む)	累計設置 巣箱数	現存アタッチ メント設置数	現存 天然営巣木	使用不可 天然営巣木
		過去 繁殖確認	繁殖未確認					
全体	206	100	106	239	445	145	51	19
根室振興局	65	44	21	149	214	49	5	2
釧路総合振興局	47	24	23	36	83	30	9	6
オホーツク総合振興局	25	13	12	21	46	18	5	3
十勝総合振興局	36	8	28	19	55	24	21	3
日高振興局	24	7	17	8	32	18	4	3
上川総合振興局	9	4	5	6	15	6	7	2

図1 巣箱設置等の状況 ※「繁殖確認」は、架替前巣箱における実績も含めカウントしている

(2) 給餌

- 全体10か所で4,050kg、環境省事業で2,570kgの活魚を給餌する見込み。詳細は参考資料1-3、1-4（いずれも非公開資料）を参照。

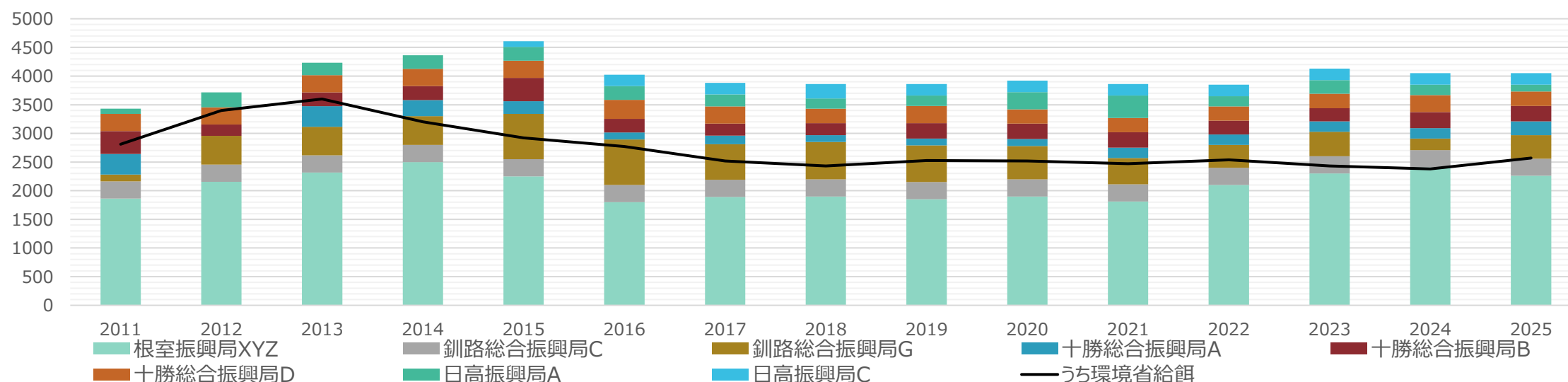


図2 給餌量の推移

(1) 傷病個体の収容・事故防止対策

- 8件の死亡が確認された（2026年1月末時点）。うち人為的な要因は少なくとも3件。
- 初めて高病原性鳥インフルエンザへの感染が確認された。現地調査・作業における感染拡大防止対策を徹底した。

No.	収容日	振興局	生/死	幼/成	性別	収容要因	備考
1	2025/5/27	十勝	死	ヒナ	不明	不明	標識調査時に巣を確認したところ、死亡したヒナを発見。
2	2025/5/27	十勝	死	亜成	オス	感電事故	2021年標識個体(十勝総合振興局)。地絡事故をうけて実施された巡視により発見。事故対策協議中。
3	2025/6/5	オホ	死	ヒナ	不明	不明	標識調査時に巣を確認したところ、死亡したヒナを発見。
4	2025/7/4	釧路	死	幼	不明	不明	2024年標識個体(釧路総合振興局)。一般の方が湖底に沈んでいるのを発見。
5	2025/9/7	オホ	死	幼	オス	交通事故	2025年標識個体(オホーツク総合振興局)。一般の方が道路上で発見。事故対策協議予定。
6	2025/10/1	根室	死	成	メス	交通事故	未標識個体。飛べない状態の個体を周辺住民が道路上で発見、収容後治療中に死亡。事故対策協議中。
7	2025/10/27	根室	死	亜成	オス	不明	2021年標識個体(根室振興局)。周辺住民が林内で発見。高病原性鳥インフルエンザ陽性。
8	2025/10/29	根室	死	不明	不明	不明	足環は回収されず。国有林自然保護管理員が巡視時に発見。

図1 令和7年度シマフクロウ傷病収容一覧

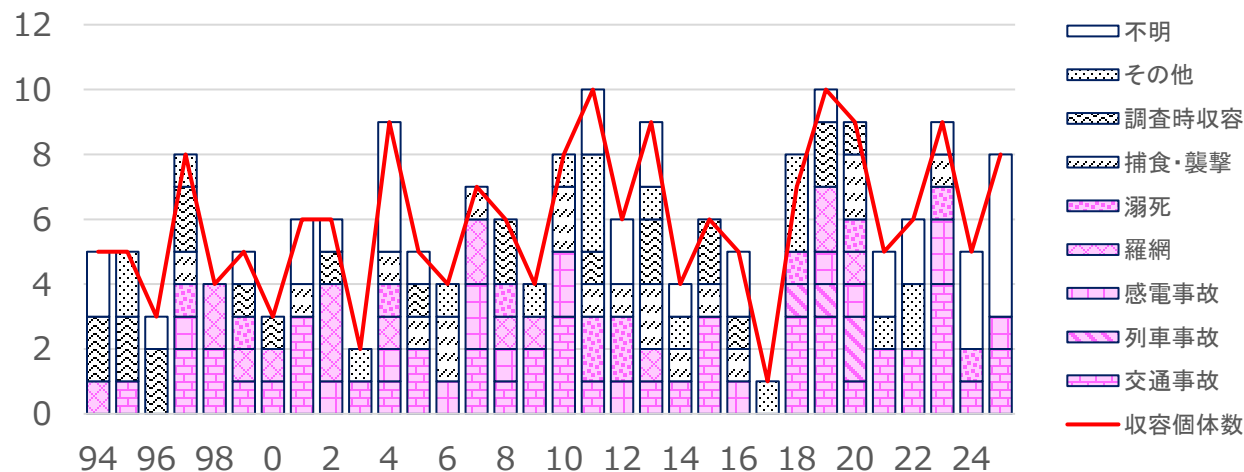


図2 これまでのシマフクロウ傷病収容状況

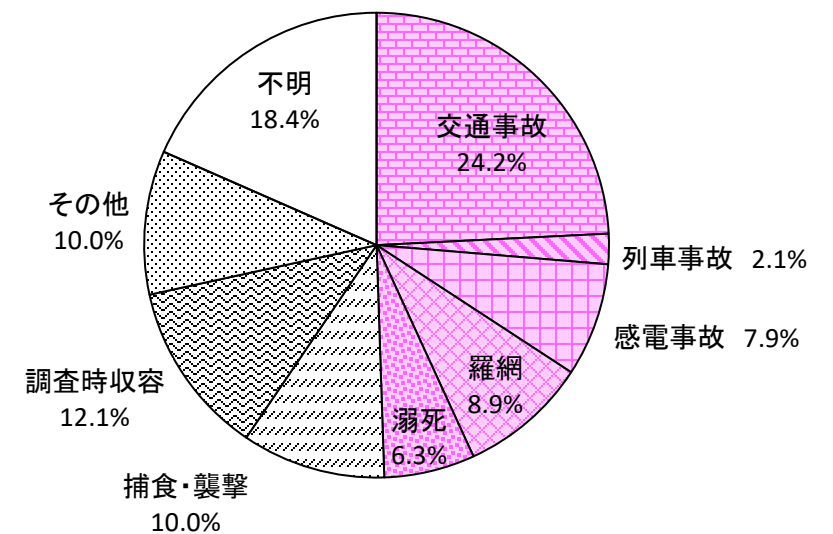


図3 シマフクロウ傷病収容要因の割合

(2) 釧路湿原野生生物保護センターにおける治療・リハビリ等

- 1羽リハビリ中（2022年収容。4歳）。リハビリが進み、2025年10月に中ケージから大ケージへ移動。採餌・飛行訓練を継続。バードピンによる交通事故対策の有効性に関する検証実験を野生生物保護センターにて開始（2026年2月）。
- 釧路市動物園に1羽レンタル中（2019年収容）。放鳥の詳しい時期や場所について、放鳥WGで議論中。

詳細は議事3において別途説明



シマフクロウ生息環境整備勉強会の様子 (2025.12)

ルールカード



旭山動物園にて
夜の動物園 (2025.8)
雪あかりの動物園 (2026.2)

環境ひろばさっぽろ2025にて
(2025.7)

コンサドーレ札幌ゲーム
でのブース出展 (2025.11)

令和7年度シマフクロウ域内保全・域外保全意見交換会の概要

1. 開催日時及び開催場所

日時：令和8年1月28日（水）13:30～16:30

場所：北海道地方環境事務所会議室（WEB併用）

2. 出席者

1) 域内保全有識者

株式会社猛禽類医学研究所 齊藤代表、シマフクロウ環境研究会 竹中代表、
根室市歴史と自然の資料館 外山学芸員、北海学園大学工学部 早矢仕教授
北海道シマフクロウの会 山本会員

2) 域外保全関係者

釧路市動物園、旭川市旭山動物園、札幌市環境局円山動物園、おびひろ動物園、
秋田市大森山動物園、長野市茶臼山動物園、那須どうぶつ王国

3. 意見交換会の概要

1) 報告事項

(1) 令和7年度環境省シマフクロウ保護増殖事業実施結果

- ・令和7年度の生息状況調査、標識調査結果、傷病個体の収容状況、根釧地域における生息環境整備の取組等を報告。

(2) 生息域外保全に係る各園の取組状況

- ・域外保全関係者から各園の飼育状況及び普及啓発の取組等を報告。

2) 意見交換

(1) 域外保全施設における課題について

- ・水族館等も含めて繁殖個体受け入れ先の開拓を進めるとともに、人工孵化の技術継承、普及啓発、野生復帰等への活用も含め、域外保全の位置づけや目的について整理した方がよい。

(2) 動物園等と連携した普及啓発について

- ・北海道の域外保全動物園の全てでシマフクロウの飼育を実現してほしい。
- ・動物園における普及啓発を旭山動物園で試行し効果を感じているが、シマフクロウとの適切な距離感を正しく伝えられるような工夫が必要。

(3) シマフクロウワーキンググループ等の整理（案）について

- ・いずれも環境省だけでは進められない取組なので、国土交通省、林野庁、北海道庁等の関係行政機関等や、河川・森林の専門家等に積極的に参加を求めた方がよい。
- ・シマフクロウと共存する社会づくり WG には、シマフクロウ飼育動物園にも参加を求めた方がよい。

シマフクロウ生息地拡大に向けた環境整備計画に係る 全体目標の概要

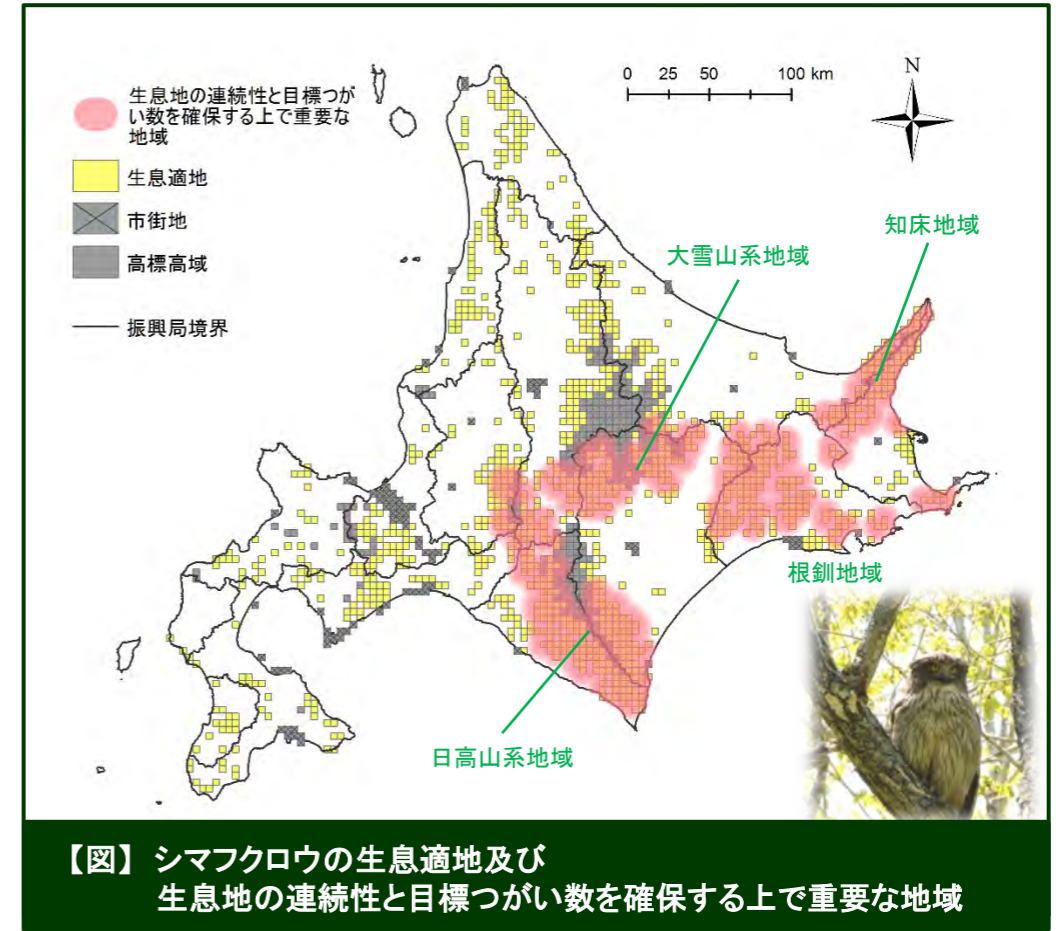
平成28年3月

参考資料1-1

◆全体目標

目標つがい数

「知床」、「根釧」、「大雪山系」及び「日高山系」の4つの既存の生息地を中心に、それぞれが一つのまとまりを持った個体群として、各個体群のつがい数が「24つがい」以上となることを目標とする



【図】シマフクロウの生息適地及び生息地の連続性と目標つがい数を確保する上で重要な地域

全体目標の策定にあたり現地調査は行っておらず、各解析においてはデータの不足等の課題もあるため、今後、精度の向上に努めていく必要がある

生息環境の保全及び環境整備への活用

目標つがい数の達成に向けて、図を参考に、各事業者が実際の現地の状況、行政計画等と照らし、個別に生息環境の保全及び環境整備が可能な場所を必要に応じて検討し、生息環境の保全及び環境整備を実施して行くことを想定

シマフクロウの営巣や採餌のための河畔林・河川環境の保全・整備、事故防止対策などのシマフクロウの生息に必要な環境条件を整える活動

現地情報の収集

全体目標の評価・見直し

- ✓繁殖つがい数のモニタリングによる全体目標の達成状況の評価
 - ✓現地の状況や実際のシマフクロウの個体群動態に関する情報を収集し、全体目標の妥当性を検証
- 必要に応じて全体目標を見直し

(問合せ先)

本件に関するお問合せは以下まで
〒085-8639 釧路市幸町10-3 釧路地方合同庁舎4階 釧路自然環境事務所 野生物課
Tel:0154-32-7500 Fax:0154-32-7575

◆背景

シマフクロウ保護増殖事業による一定の成果
→ 近年、生息個体数は増加傾向

課題

- ✓生息地の集中と分断
⇒生息地の孤立化
⇒近親交配・遺伝的多様性の低下
- ✓給餌、巣箱への依存 etc...



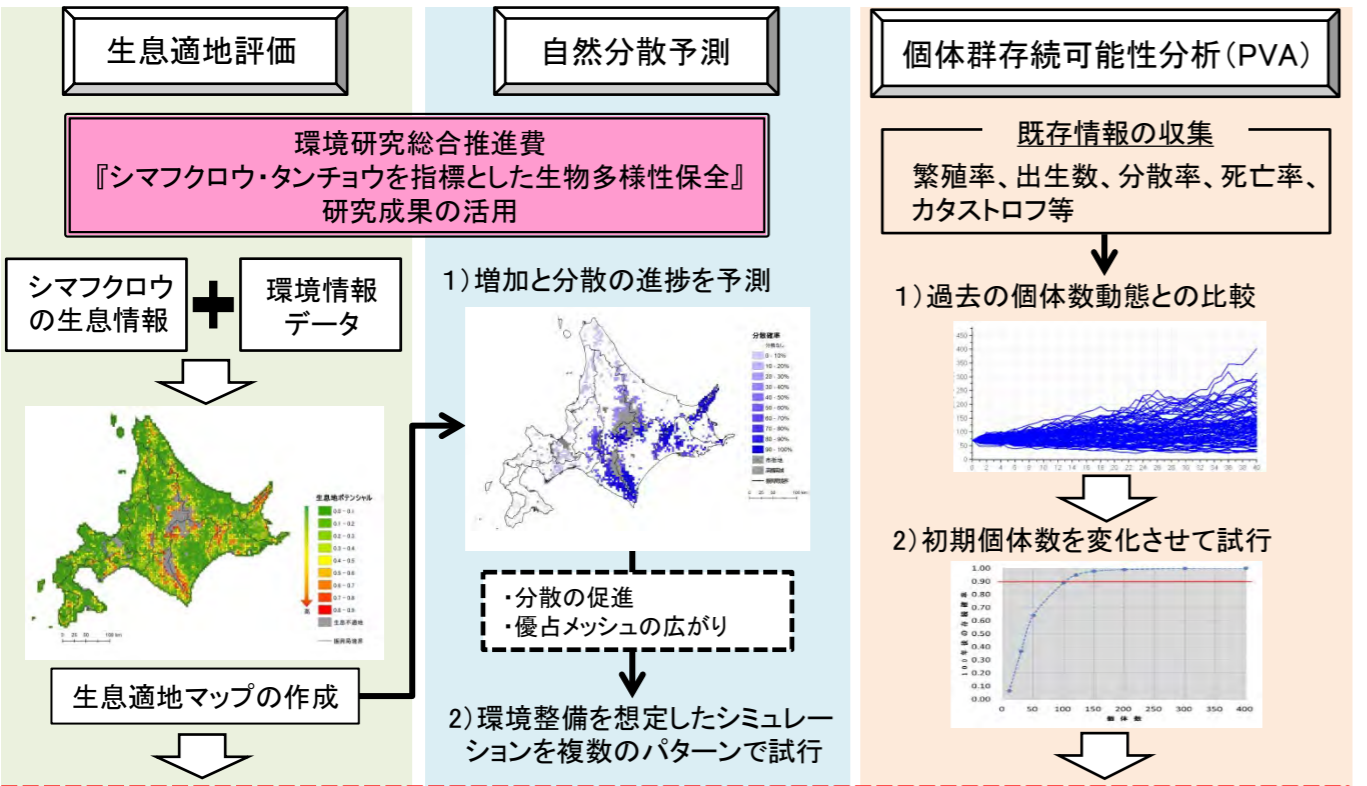
点の保護から面的な生息環境の保全へ

シマフクロウ生息地拡大に向けた環境整備計画(平成25年3月策定)

- ✓環境省としては、公共事業等において生息環境に積極的な配慮や直接的に生息環境の整備が進むよう調整していく
- ✓そのためには、「どの地域で、どこまで(個体数増を目指す)実施するか」を示す必要がある

環境省として、シマフクロウの生息地拡大に向けた環境整備の取組を進める一環で環境整備対象地の選択及び具体的事業を進めるに当たっての数値目標を検討

◆数値目標の検討方法



✓既存生息地の生息状況を指標にして北海道全域の生息適地及び環境収容力を評価

✓面的な広がりやすさを評価
✓分散促進に効果的な環境整備の対象地を評価

✓100年間の絶滅可能性10%以下となる個体数(最小存続可能個体数(MVP))の検討

シマフクロウ保護の取組

シマフクロウを守るために、関係者と連携し
40年以上取組を進めてきました。

この結果、かつて70羽まで減ったシマフクロウが、
2022年には100つがい(200羽)になる成果もみられています。
一方でまだまだ絶滅の危機に瀕しており、取組の継続が必要です。

特に、生息場所をさらに拡げていくために、
みなさんのご協力をお願いいたします。

シマフクロウがすむ豊かな自然環境を取り戻すことは、
私たちの生活を豊かにすることにもつながります。



1 増やす取組

餌の魚類が乏しい地域など限られた場所で給餌
事業を行ったり、営巣に必要な樹洞の代わりに
人工巣箱を設置・管理したりしています。



2 減らさない取組

交通事故や感電事故が発生することがあります。
事故にあった個体を収容し、原因を究明
することで、事故対策に活用しています。
生体はリハビリをして野生復帰しています。



3 拡げる取組

植樹や市民魚道などにより、森林や河川の
環境を良くしてシマフクロウの生息地を再生
しています。



4 知る取組

つがいの生息状況調査・ヒナへの標識調査を
実施し、保全対策の検討に必要な基礎データを
地道に集めています。
多くの人にシマフクロウやその生息環境の素晴
らしさを知ってもらい普及啓発にも力を入れています。

詳しくはこちら
シマフクロウと共に暮らす
(シマフクロウとの共存ルール)



シマフクロウとの共存ルール

シマフクロウへの人のむやみな接近や、
その繁殖地付近への人のむやみな立ち入りにより、
シマフクロウの採餌や繁殖が妨害される事例が確認されています。
人間の行動によりシマフクロウの生息環境が悪化しないよう、
次のルールを守ってください。

<p>1 </p> <p>おどかさないう そっと離れてください</p>	<p>2 </p> <p>ライトやフラッシュの 光をあてないでください</p>
<p>3 </p> <p>巣やヒナ、幼鳥には 近づかないでください</p>	<p>4 </p> <p>目撃地点の 情報や 巣やヒナ 幼鳥の場所を 拡散しないでください</p>
<p>5 </p> <p>餌付けしないでください *餌付けは保護増殖事業による給餌 と異なる行為です</p>	<p>6 </p> <p>巣箱を設置 しないでください *保護増殖事業による巣箱設置は 専門家による助言等のもと実施さ れています。</p>



詳しくはこちら
シマフクロウと共に暮らす
(シマフクロウとの共存ルール)



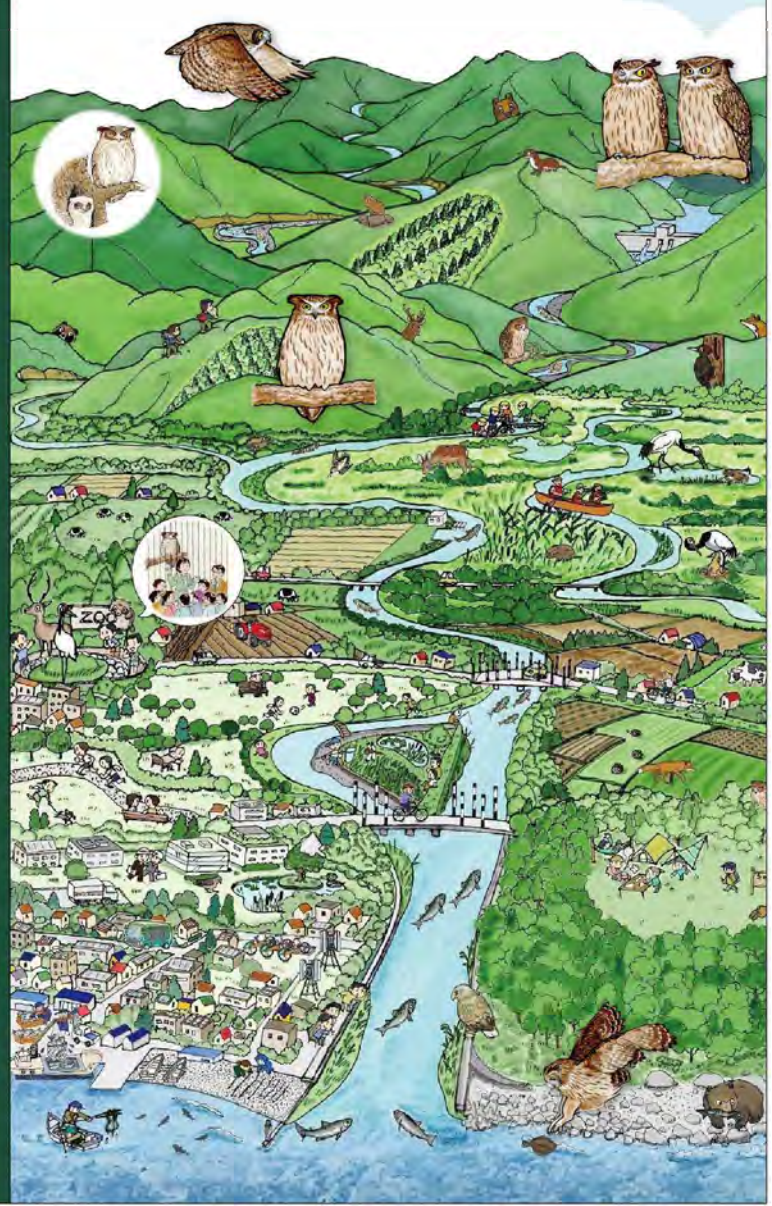
連絡先

発行 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
〒085-8639
北海道釧路市幸町10-3 釧路地方合同庁舎4F
TEL:0154-32-7500 FAX:0154-32-7575



写真協力/山本 純郎 竹中 健

シマフクロウと 共に暮らす



どんなものを食べているのか?

主要な餌は、オショロコマ、サクラマス、ウグイ、ハナカジカ等の河川魚類、スナガレイ等の浅瀬の海水魚、秋に回遊遡上するカラフトマスやシロザケ等の魚類です。他にネズミ等の小型哺乳類、小～中型の鳥類、エゾアカガエル、ザリガニ等、多様な生き物を食べる事が確認されています。

どんな所にすんでいるのか?

生息地は、主食となっている魚類が豊富に生息している河川、湖沼の周辺部で、繁殖に必要な樹洞のあるミズナラ、ハルニレ、カツラ等の広葉樹大径木を含む広葉樹林～針広混交林に生息しています。また、1年を通じて同じ地域に定着し、河川沿いに10kmにも及ぶ行動圏を持っています。家族単位で生活し、縄張り性が強く、別の個体を寄せ付けません。

シマフクロウとは

シマフクロウ

(学名) *Ketupa blakistoni blakistoni* (英名) Blakiston's fish owl

目名・科名	フクロウ目フクロウ科
環境省レッドリスト	絶滅危惧IA類(CR)
分布	北海道、国後島、ロシアサハリン島に分布する(別亜種はロシア極東地域を中心に生息する)。
形態	全長66~69cm、翼開長約180cm。
減少要因	土地利用開発や森林伐採による生息地や営巣地の消失、河川開発等による餌資源の減少。

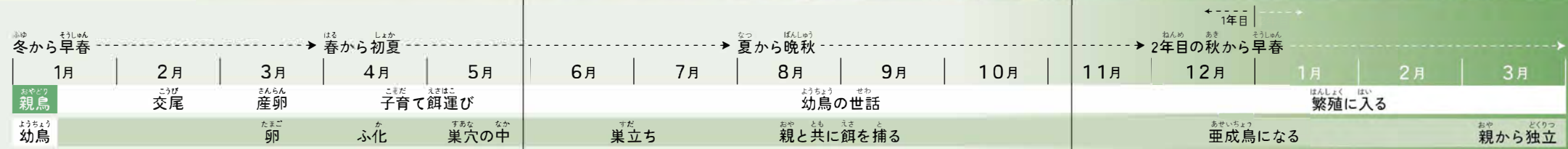


幼鳥

世界最大級のフクロウ

夜行性、魚類を主食とする。
 広い縄張りを形成し、
 広葉樹大径木の樹洞に営巣する。

つがいの子育て



令和 8 年度シマフクロウ保護増殖事業実施計画（案）

環境省北海道地方環境事務所
釧路自然環境事務所

➤ 知る取組、増やす取組、減らさない取組、広げる取組

＜知る取組＞

（1）生息状況調査及び（2）標識調査

- ・【継続】調査実施前に打合せを実施し、関係者から提供された繁殖状況情報などをもとに調査を実施する。なお、可能な限り標識調査の効率化に努める。

＜増やす取組＞

（3）巣箱設置等

- ・【継続】新規設置・メンテナンスを実施。
- ・【継続】テン等捕食者への対策が必要な箇所については、天然木も含めアタッチメント・鉄板を適宜設置。
- ・【継続】利用されない巣箱の撤去など、全体目標や管理体制を踏まえて、引き続き効率的な巣箱運用を目指す。

（4）給餌

- ・【継続】道内 7 か所においてヤマメ・ニジマス等計 2,450kg 程度（令和 7 年度と同量程度）を最大給餌量として設定。
- ・【継続】各給餌場では、今シーズンの繁殖状況に応じて、適宜給餌量調整を実施。
- ・【継続】各給餌場における食害状況の調査や事故対策等を引き続き実施。

＜減らさない取組＞

（5）傷病個体の収容・事故防止対策

- ・【継続】傷病個体を収容し、収容要因を解明するとともに、人為的要因に対しては、必要に応じて事故要因の解消に向けて関係者と検討・対応に努める。

(6) 釧路湿原野生生物保護センターにおける治療・リハビリ等

- ・【継続】現在リハビリ中の1羽については、引き続き採餌訓練や飛行訓練などのリハビリを実施。
- ・【継続】新規収容個体、動物園レンタル中の黒XXについては、治療、リハビリを行いつつ、放鳥WGにおける議論等をふまえ、個体の取扱いを検討。

< 拡げる取組 >**(7) 放鳥適地調査及び分散行動追跡**

- ・R7年度の検討結果を踏まえ、放鳥候補地における生息環境や土地所有状況等を調査し、具体的な候補地の及び放鳥手順の検討を進める。

(8) 根釧地域におけるシマフクロウ等4種の生息環境整備

- ・議事3で別途説明。

(9) 普及啓発等

- ・【継続】釧路湿原野生生物保護センターの展示、生息地における取材対応等を通じた普及啓発を実施。
- ・【継続】関係機関、動物園、北海道シマフクロウの会やシマフクロウ基金などの関係団体、企業等と連携して普及啓発の取組を検討・実施する。※議事3で別途説明。

令和7年度シマフクロウ保護増殖事業実施報告及び令和8年度事業計画

北海道森林管理局

1 令和7年度報告

(1) 希少野生動植物保護管理事業（シマフクロウ巡視業務）※見込み

振興局名	区域（エリア）	巡視人員数	巡視延日数
上川総合振興局管内	1区域	3名	27日
オホーツク総合振興局管内	3区域	5名	36日
十勝総合振興局管内	9区域	8名	110日
釧路総合振興局管内	1区域	4名	23日
根室振興局管内	3区域	4名	48日
計	17区域	24名	244日

(2) 生息地の保護、管理事業等について

十勝総合振興局及び根室振興局管内の国有林において、森林施業実行に当たり、事前に生物多様性保全アドバイザーに意見聴取を行い、実施時期などシマフクロウの生息に配慮した事業を実施。

(3) 巣箱について

日高振興局管内の国有林内において、2箇所巣箱を設置。

(4) 給餌について

十勝総合振興局管内の国有林内の給餌池において、ニジマスを11月～3月に計8回240kgの給餌を実施予定。

(5) 署独自の取組

日高振興局管内の国有林内において、魚道を設置等。

(6) 普及啓発活動

日高振興局管内の森林管理署において、シマフクロウに関する様々な普及啓発活動を実施。

2 令和8年度事業計画

(1) 巡視事業

巡視計画について、詳細は調整中。

(2) 生息地の保護、管理事業等について

引き続き、森林整備事業については、実施区域及び実施時期に配慮。

(3) 巣箱について

詳細は調整中。

シマフクロウに配慮した森林整備について

場所	十勝総合振興局管内
タイトル	製品生産事業における生物多様性保全への配慮
林種	トドマツ人工林
作業種	保育間伐
取組の背景・ 施業のねらい	<ul style="list-style-type: none">・近隣において猛禽類の営巣が確認されており、施業が及ぼす影響を最小限にすることにより森林施業と生物多様性保全の両立を目指す。・また施業の実施にあたっては専門家よりアドバイスをもらい実施。
具体的配慮 (指示)事項 (特記仕様書等の ファイル名は 特記仕様書1_〇 〇署とする)	施業時期について繁殖と孵化に極力影響の少ない9月から12月に限定し、伐採後は、販売後の運材や除雪もあることから影響のないエリアまで材を移動させること。猛禽類の情報管理のため、仕様書での記載は避け、契約期間の限定のみとした。
今後の 取組内容	<ul style="list-style-type: none">・今後においても猛禽類のモニタリングを継続し、必要な施業を実施する。

令和7年度 動物園の飼育下個体群における経過報告および令和8年度実施計画（案）

1. 2025年の動物園の飼育下個体群における経過報告

●異動

(1) 個体数

増加：なし)

減少：なし

性別判定：4羽（♂3 ♀1）

♂：♀：？=14：17：1 合計 32羽

(2) 移動

なし

(3) 飼育施設

増減なし

飼育施設は6園のまま

●繁殖関係経過

(1) フラト x ラライ（釧路市動物園）

2/16、20 産卵

3/7 擬卵と交換（2卵とも有精卵）

繁殖制限

(2) R黄 x アオイ（釧路市動物園）

2/24、28 産卵

3/19 擬卵と交換（2卵とも有精卵）

繁殖制限

(3) 黒 X X x ミドリ（釧路市動物園）

2023.10.25 来園（環境省より飼育下個体群充実のため借受け）

2024.2.12 同居開始

鳴き交わし、求愛給餌、黒 XX の巣内整備確認

交尾未確認

ミドリの入巢、産卵に至らず

(4) クック x レイン（札幌市円山動物園）

3/15 1卵産卵

3/17 アライグマによる卵の食害

その後追卵するも無精卵

(5) ロロ x サクラ (旭川市旭山動物園)

遺伝的多様性確保のため♀をモコからサクラに変更

2024.12 同居開始

2025.1 鳴き交わし

3 交尾確認

産卵に至らず

(6) ココラ x R 青 (アオハ) (秋田市大森山動物園)

2/27、3/5 産卵

ふ化予定日を過ぎても 2 卵ともふ化せず

その後、2 卵とも破卵 (回収するも有精卵と判断する痕跡なし)

2. 2025 年における広報・普及、調査・研究

(1) 釧路市動物園

北海道ゾーンワンポイントガイド 82 回 648 名

(2) 札幌市円山動物園

円山 ZOO ナイトツアー2025 (10/4、12) 60 名

円山 ZOO ガイド (シマフクロウ) (月 1 回程度) 6 回 130 名

円山 ZOO ガイド (国際フクロウ啓発の日) (夏季) 3 回 80 名

円山 ZOO ガイド (猛禽類) (春季) 8 回 180 名

円山 ZOO ガイド (野生復帰施設ガイド) (秋季) 5 回 41 名

(3) 旭川市旭山動物園

夜の動物園 域内域外普及啓発連携

講話：30～40 名、ガイド 50～60 名、ワークショップ 20～30 名

ワンポイントガイド (年 2～3 回程度) 各回 20 名程度

もぐもぐタイム (年 100 回程度) 各回 10 名程度

(4) 秋田市大森山動物園

常設展示看板

(5) 長野市茶臼山動物園

国際フクロウの日イベント (8/2) 約 50 名

クリスマスイベント (12/20、21) 各日 20 名

(6) 那須どうぶつ王国

絶滅危惧種の日「シマフクロウトーク」(9/7) 200 名

3. 2026 年実施計画（案）

- (1) ラライ x フラト（釧路市動物園）
繁殖制限
- (2) R 黄 x アオイ（釧路市動物園）
繁殖制限
- (3) 黒 X X x ミドリ（釧路市動物園）
繁殖推進
- (4) クック x レイン（札幌市円山動物園）
施設整備、繁殖検討中
- (6) ロロ x サクラ
繁殖推進
- (7) ココラ x R 青（アオハ）（秋田市大森山動物園）
繁殖推進
- (8) 長野市茶臼山動物園
愛花からペア飼育への準備
- (9) 那須どうぶつ王国
カムイ(右水色)♂の相手の準備
- (10) モコの活用
ウトロまたはククと相性検討（ウトロとククは現在子孫なし）
- (11) 飼育園の拡大
新規飼育園の開拓。
- (12) 広報普及活動の推進
新規活動や内容の充実を図り、広報普及の推進
- (13) 保護増殖事業者
釧路市は継続を予定

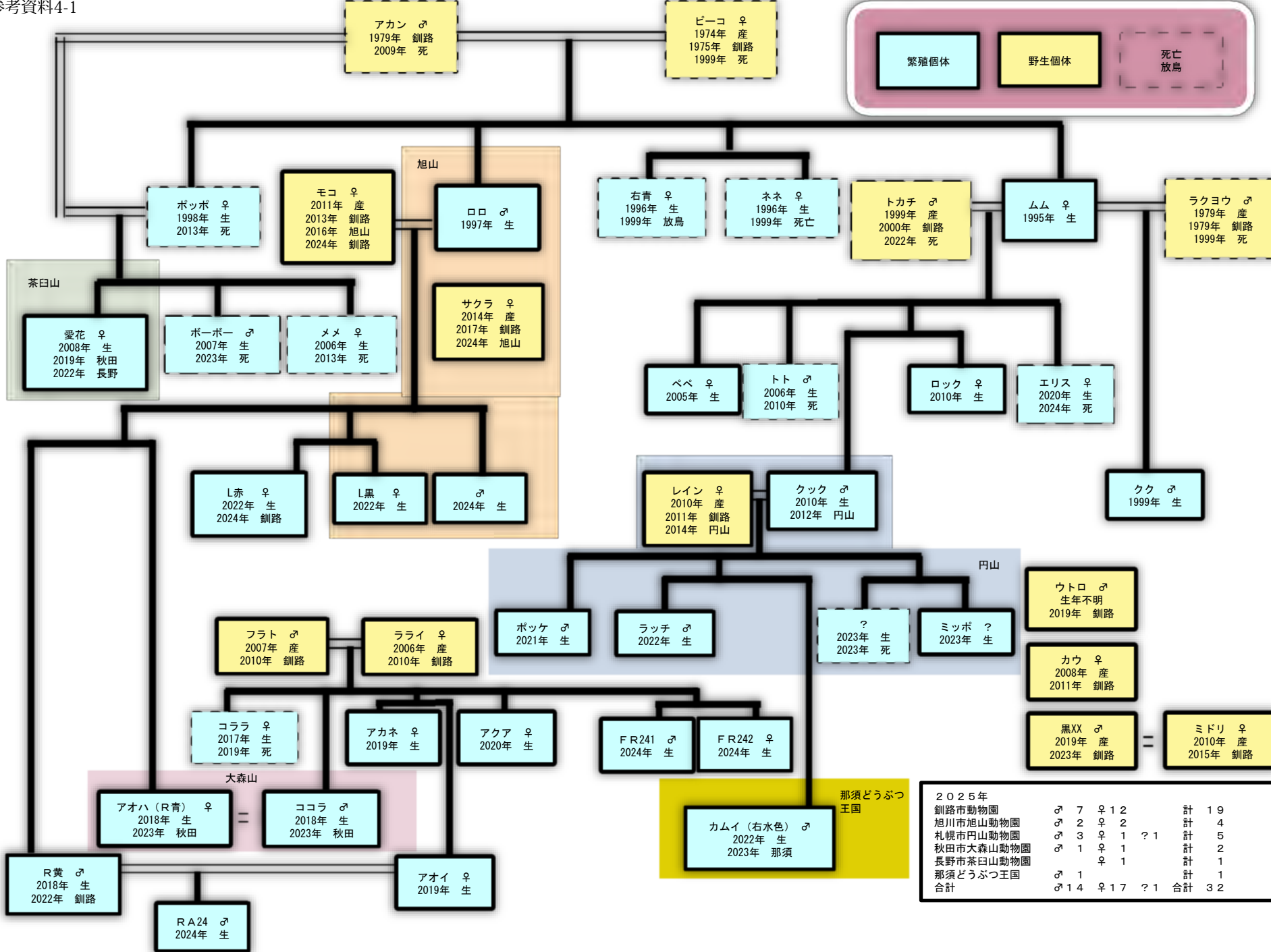
4. その他、検討課題など

- (1) 海外との交流
海外の動物園等からシマフクロウ飼育に関する問合せあり

(2) 飼育下繁殖個体の放鳥

放鳥手順の飼育下繁殖個体の具体的放鳥方法の検討

(3) 飼育下個体群の維持・充実計画書（案）の改訂



繁殖個体

野生個体

死亡放鳥

2025年							
釧路市動物園	♂	7	♀	12	計	19	
旭川市旭山動物園	♂	2	♀	2	計	4	
札幌市円山動物園	♂	3	♀	1	? 1	計	5
秋田市大森山動物園	♂	1	♀	1		計	2
長野市茶臼山動物園			♀	1		計	1
那須どうぶつ王国	♂	1				計	1
合計	♂	14	♀	17	? 1	合計	32

2025(令和7)年度シマフクロウ保護増殖事業実施報告および2026(令和8)年度事業計画

飼育状況
(2024.3.31)

*:推定

個体名	年齢	性別	ハプロタイプ	ケージ
R黄(2018:ロロ×モコ)	7	♂	BFH01	ハクチョウ池C棟
アオイ(2019:ラライ×フラト)	6	♀	BFH01*	
アクア(2020:ラライ×フラト)	5	♀	BFH01*	猛禽B
ムム(1995:アカン×ピーコ) 繁殖経験有	30	♀	BFH04	猛禽B
アカネ(2019:ラライ×フラト)	6	♀	BFH01*	猛禽B
ロック(2010:トカチ×ムム)	15	♀	BFH04	猛禽B
L赤(2022:ロロ×モコ)	3	♀	BFH01*	猛禽B
クク(1999:ラクヨウ×ムム) 育雛経験有	26	♂	BFH04	ほっくーケージ
カウ(2008:野生) 右翼欠損	17	♀	BFH01	渡邊ケージNo.1
(2024:ラライ×フラト)	1	♂	BFH01*	渡邊ケージNo.2
(2024:ラライ×フラト)	1	♀	BFH01*	渡邊ケージNo.3
(2024:R黄×アオイ)	1	♂	BFH01*	渡邊ケージNo.5
ミドリ(2010:野生) 左眼角膜炎、緑X	15	♀	BFH04	渡邊ケージNo.7
黒XX(2019:野生)	6	♂		
フラト(2007:野生) 繁殖経験有	18	♂	BFH01	管理棟横ケージ
ラライ(2006:野生) 繁殖経験有	19	♀	BFH01	
ウトロ(? :野生) 野外で繁殖経験有 右翼翼角より先端切除	Ad	♂		増殖センター下
ペペ(2005:トカチ×ムム) ポッポ×ククへ托卵	20	♀	BFH04	増殖センター
モコ(2011:野生) 右眼失明、繁殖経験有	14	♀	BFH01	増殖センター

クック(2010:トカチ×ムム) 繁殖経験有	15	♂	BFH04*	円山動物園
レイン(2010:野生) 左上腕骨骨折、繁殖経験有	15	♀		
(2023:クック×レイン)	2	?		
ラッチ(左黄色)(2022:クック×レイン)	3	♂		円山動物園
ポッケ(2021:クック×レイン)	4	♂		円山動物園

ロロ(1997:アカン×ピーコ) 繁殖経験有	28	♂	BFH04	旭山動物園
サクラ(2014:野生)	11	♀		
(2024:ロロ×モコ)	1	♂	BFH01*	旭山動物園
L黒(2022:ロロ×モコ)	2	♀	BFH01*	旭山動物園

ココラ(2018:ラライ×フラト)	7	♂	BFH01*	大森山動物園
アオハ(R青)(2018:ロロ×モコ)	7	♀	BFH01*	

愛花(2008:アカン×ポッポ) 近親	17	♀	BFH04	茶臼山動物園
------------------------	----	---	-------	--------

カムイ(2022:クック×レイン)	3	♂		那須どうぶつ王国
-------------------	---	---	--	----------

2024.2.29 飼育総数	32羽	♂:♀:?	11:16:5
飼育下繁殖	23羽		8:10:5
{ 近親交配	1羽		0:1:0
野生由来	9羽		3:6:0

2026年予定

*:推定

個体名	年齢	性別	ハプロタイプ	ケージ
R黄(2018:ロロ×モコ)	8	♂	BFH01	ハクチョウ池C棟
アオイ(2019:ラライ×フラト)	7	♀	BFH01*	
アクア(2020:ラライ×フラト)	6	♀	BFH01*	猛禽B
ムム(1995:アカン×ピーコ) 繁殖経験有	31	♀	BFH04	猛禽B
アカネ(2019:ラライ×フラト)	7	♀	BFH01*	猛禽B
ロック(2010:トカチ×ムム)	16	♀	BFH04	猛禽B
L赤(2022:ロロ×モコ)	4	♀	BFH01*	猛禽B
クク(1999:ラクヨウ×ムム) 育雛経験有	27	♂	BFH04	ほっくーケージ
カウ(2008:野生) 右翼欠損	18	♀	BFH01	渡邊ケージNo.1
(2024:ラライ×フラト)	2	♂	BFH01*	渡邊ケージNo.2
(2024:ラライ×フラト)	2	♀	BFH01*	渡邊ケージNo.3
(2024:R黄×アオイ)	2	♂	BFH01*	渡邊ケージNo.5
ミドリ(2010:野生) 左眼角膜炎、緑X	16	♀	BFH04	渡邊ケージNo.7
黒XX(2019:野生)	7	♂		
フラト(2007:野生) 繁殖経験有	19	♂	BFH01	管理棟横ケージ
ラライ(2006:野生) 繁殖経験有	20	♀	BFH01	
ウトロ(? :野生) 野外で繁殖経験有 右翼翼角より先端切除	Ad	♂		増殖センター下
ペペ(2005:トカチ×ムム) ポッポ×ククへ托卵	21	♀	BFH04	増殖センター
モコ(2011:野生) 右眼失明、繁殖経験有	15	♀	BFH01	増殖センター

クック(2010:トカチ×ムム) 繁殖経験有	16	♂	BFH04*	円山動物園
レイン(2010:野生) 左上腕骨骨折、繁殖経験有	16	♀		
(2023:クック×レイン)	3	?		
ラッチ(左黄色)(2022:クック×レイン)	4	♂		円山動物園
ポッケ(2021:クック×レイン)	5	♂		円山動物園

ロロ(1997:アカン×ピーコ) 繁殖経験有	29	♂	BFH04	旭山動物園
サクラ(2014:野生)	12	♀		
(2024:ロロ×モコ)	2	♂	BFH01*	旭山動物園
L黒(2022:ロロ×モコ)	3	♀	BFH01*	旭山動物園

ココラ(2018:ラライ×フラト)	8	♂	BFH01*	大森山動物園
アオハ(R青)(2018:ロロ×モコ)	8	♀	BFH01*	

愛花(2008:アカン×ポッポ) 近親	18	♀	BFH04	茶臼山動物園
------------------------	----	---	-------	--------

カムイ(2022:クック×レイン)	4	♂		那須どうぶつ王国
-------------------	---	---	--	----------

2024.2.29 飼育総数	32羽	♂:♀:?	11:16:5
飼育下繁殖	23羽		8:10:5
{ 近親交配	1羽		0:1:0
野生由来	9羽		3:6:0

令和7年度シマフクロウ保護増殖事業実施報告及び令和8年度事業計画(案)

根室市水産経済部農林課林務・自然保護担当

1. 令和7年度事業報告

(1) 生息地における繁殖条件の改善及び生息環境整備

① 生息・繁殖条件の改善

給餌（餌代を根室市において一部負担している）

給餌作業においては、根室市希少鳥類保護監視員が行っている。

場所	給餌時期	数量	魚種
根室市内	R07. 9	150kg	ヤマメ
	R07. 10	150kg	

※付帯事業として、給餌池の水中ポンプメンテナンスを年1回実施。

② 生息地における監視等

期 間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
場 所	市内一円
内 容	希少鳥類保護監視員1名を委嘱し、生息地の定期的巡回を実施
効 果	シマフクロウ保護増殖計画に基づいた、給餌、事故防止対策及び生息地における監視により、当市に生息するシマフクロウの自然状態での安定的な存続が図られている。

③ 衝突事故防止対策

令和7年7月に、市内において衝突事故防止のため、旗及びイレクタータイプの設置・交換作業を根室市希少鳥類保護監視員のほか市職員、日本野鳥の会レンジャー、環境省レンジャーで実施。（交通安全旗は根室市交通市民生活担当から無償提供、その他消耗品については、根室市負担）

④ 給餌場への道路環境整備

根室市内の給餌場に繋がる道路の草刈りや除雪、碎石の追加や枝払い等について、市農林課職員での実施に加え、都市整備課の協力を得ながら、保護増殖活動の環境整備を実施。

⑤ 普及啓発活動の実施

令和8年1月に開催され、国内外のバードウォッチャーが参加した、ねむろバードランドフェスティバル2026において、シマフクロウ環境研究会 竹中代表による「シマフクロウを守るためにしてきたこと」と題した講演会の開催及び、環境省釧路自然環境事務所 大嶋自然保護官による「シマフクロウ共存ルール」等についての話題提供が行われ、定員50名を大きく上回る85人が参加し、シマフクロウの生態や保護増殖活動、共存方法等を紹介して頂くことで、その普及啓発に努めた。

2. 令和8年度事業計画（案）

上記①～④について、継続実施を予定するとともに、その他必要と認められる事業があれば、実施に向け検討する。

日本野鳥の会のシマフクロウ保護活動 (2025~2026 年度)

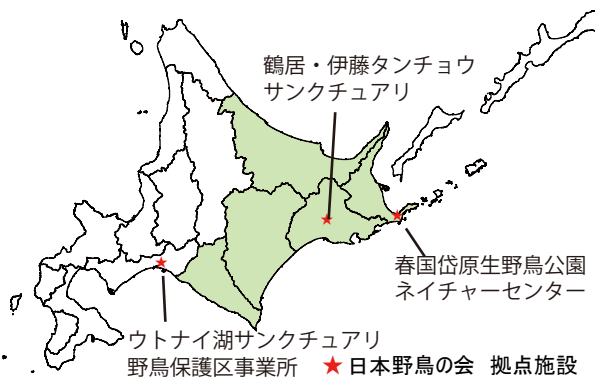
I. 民有地における生息環境の保全

1. 民間保護地域「野鳥保護区」を設置して保全

日本野鳥の会では、2004年からはシマフクロウの生息する民有地を購入または所有者と協定等を結ぶことで、独自の保護地域「野鳥保護区」を設置してシマフクロウの生息地保全を進めています。これまでに5振興局管内の14つがいを利用する約3,100haの民有地で、土地の購入後にも適正な管理を行なうなど、シマフクロウ生息地の保全活動を継続しています。



釧路地域の野鳥保護区の河畔林



野鳥保護区や協定、覚書等で保全

オホーツク管内：	15ha	1つがい
根室管内：	286ha	6つがい
釧路管内：	2,258ha	3つがい
十勝管内：	365ha	1つがい
日高管内：	228ha	3つがい
合計：	3,153ha	14つがい

民有地の購入をはじめとする当会の生息地保全活動は、環境省ならびに保護増殖検討委員会のご協力のもと、道内3拠点（苫小牧・鶴居・根室）で連携して実施しています。また、これらの保護活動は、市民から企業まで多くの方からのご寄付、ご支援に支えられています。

2. 保全エリア拡大に向けて

2025年度には、釧路・根室地域の生息地の民有林および、胆振地域の今後分散が期待される民有林を保全するため、土地購入をするための所有者等の情報収集を行なったほか、土地所有法人との保全に向けた調整等を実施しました。2026年度は、引き続き、これら地域の土地の購入や協定による保全を進めていきます。

3. モニタリング調査

野鳥保護区として保全している区域や今後保全が必要な区域において、シマフクロウや他の生きものの生息状況を把握するモニタリング調査を実施しています。

2025年度には、胆振地域で音声調査を実施したほか、日高地域および根室地域の野鳥保護区周辺において、魚の密度を把握する餌資源量調査を実施しました。2026年度は、音声調査を継続するほか、釧路地域のシマフクロウ生息地で餌資源量調査実施予定です。

※根室・釧路地域の調査は日本製紙株式会社との協働活動として実施しています



II. 野鳥保護区内での生息環境の整備

1. 採食環境の整備

(1) 日高地域における給餌場の管理

当会が管理している日高地域の給餌場では、サケの遡上期など餌資源が豊富な時期を除く繁殖期を中心とした給餌を2011年より実施しています。

2025年度は、対象つがいの繁殖が失敗したため、夏季の給餌を止めて天然の餌資源を採餌させるなど調整を行ない、年度末までに合計120kgのヤマメを給餌予定です。また、2026年度も引き続き、適正な給餌量に調整するため、無人撮影カメラのデータを活用した飛来状況の解析と、前述の近隣河川の魚類調査を継続して実施していきます。



(2) 根室地域における給餌場への協力

日本鳥類保護連盟が管理する給餌場に、餌の補填として100kgの魚を提供しました。

2026年度も、同量を提供予定です。

2. 生息環境の整備

(1) 釧路・日高・十勝・オホーツク地域のシマフクロウのための森づくり

当会が野鳥保護区として管理している森林には、トドマツやカラマツなどの人工針葉樹林も多くあることから、これをシマフクロウの生息に適した針広混交林へと戻す長期的な施業を実施しています。また、オホーツク地域では、皆伐跡地への森の復元を実施しています。2025年度は、釧路地域のカラマツ林の広葉樹導入を意図した間伐を実施しました。2026年度は日高・十勝地域の人工針葉樹林の針広混交林化の施業を行ないます。



施業を実施前の釧路地域の野鳥保護区内のカラマツ林（左）と、2026年に施業予定の十勝地域のカラマツ林（中央）、日高地域のアカエゾマツ（右）の人工林

3. 繁殖環境の整備

(1) 巣箱の維持管理と利用調査

当会では、釧路地域に3基、根室地域に1基、合計4基の巣箱を設置しており、利用状況調査や維持管理を実施しています。

2025年度は、遠隔無人カメラを用いた利用確認調査のほか、周辺の利用状況を把握するために、タイマー録音機を用いた調査を年間を通して実施しました。



巣箱と録音調査の様子。集音したデータからシマフクロウの声を抽出する

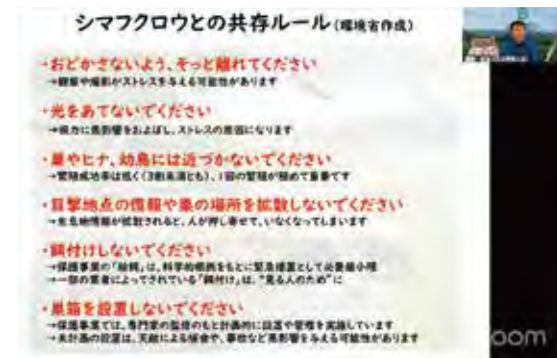
Ⅲ. 広報・教育・普及啓発活動

1. シマフクロウ保護活動の講演を実施

シマフクロウの現状やこれまでの保護活動、当会の野鳥保護区設置や企業と進めるシマフクロウ保護活動などについて、イベントへの出展やオンライン等での講演を通して企業や市民の皆さんへの普及啓発を行ないました。



NPO 法人北海道シマフクロウの会の札幌ドーム（コンサドーレ札幌開催試合）のイベント協力出展（左）と、ねむろバードランドフェスティバルへの日本製紙株式会社との共同出展（右）



日本野鳥の会主催のシマフクロウの森づくりセミナー（左）と、シマフクロウ保護活動についてのオンラインセミナー（右）。共存ルールなどについてもお伝えしている。

2. 地域の幼稚園との森づくり

2010年から根室カトリック幼稚園と実施している、シマフクロウの住める森づくり「天使の森計画」を継続し、5月に地域の園児たちとミズナラなどの植樹を、10月にはドングリの播種を実施しました。また、8月には次年度からの植樹地への防鹿柵を幼稚園の先生方と設置しました。活動を通して子どもたちから大人までシマフクロウの生態や保護活動について伝えていきます。



3. その他

ブログやFacebookなどのWEB媒体のほか、当会の会報誌などを通して、当会のシマフクロウの保護活動だけでなく、保護増殖事業やシマフクロウとの共存ルールについて発信しました。

令和 7 年度（公財）日本鳥類保護連盟の活動について

○給餌事業に関連する活動

●令和 7 年 12 月 14 日の暴風雪の影響

- ・根室管内 X の林道で倒木が発生したため、撤去した。
- ・釧路管内 G 周辺で停電が発生し、発電機も故障。地下水の供給が止まり、給餌池内の魚が全滅したため、急遽 80 kg の活魚を給餌した。

●その他

- ・根室管内 Z で 150 kg の給餌を実施した。
- ・根室管内 Y で給餌池周辺に手すりを設置した。
- ・釧路管内 G の井戸の水位低下が激しく、給餌池の維持が難しいため、新しい井戸を掘る工事を実施している。工事は 3 月に終了予定。
- ・公的給餌場 3 か所の電気料金を負担。



●令和 8 年度以降に実施予定

- ・根室管内 X、Y の給餌池の老朽化が激しいため、池の修繕を実施する。
- ・釧路管内 G の給餌池を囲うフェンスの老朽化が激しいため、補修する作業を実施する。

○普及啓発活動

・シマフクロウステッカーデザインコンテストの実施

絶滅の危機に瀕するシマフクロウの存在を啓発し、保護活動を推進することを目的としたステッカーを作成するためのデザインコンテストを2019年から実施している。その応募作品の中から最優秀賞に選ばれた作品をステッカーとし1年間普及啓発活動や寄付を集める活動などに使わせていただき、集まったご寄付はシマフクロウ保護のための活動に充てられている。



2025年度最優秀作品

・巣箱の活用

使われなくなったシマフクロウの巣箱を活用し、ジャパンバードフェスティバルなどでその大きさを他の鳥類と比較しながらシマフクロウの普及啓発活動を行っている。



昨年度ジャパンバードフェスティバルに出店した際の様子



特定非営利活動法人シマフクロウ基金 令和 7 年度活動報告

○普及啓発活動

- ・ 8/16 旭山動物園「夜の動物園」で、来園者に対してシマフクロウおよびフクロウ類の室内講演、飼育ケージ前で個体を見ながら解説の解説を実施した。
 - ・ 9/12～15 日本鳥学会 2025 年度大会（北海学園大学・北海道大学）において、当会正会員が出店するブースにて、ポスター掲示、募金箱の設置やチラシの配布を行った。
 - ・ 9月に円山動物園で行われた「ナイトツアー」に活動補助として参加した。
 - ・ 1/23～25 根室市で開催された「ねむろバードランドフェスティバル 2026」に出展し、ポスター掲示や解説、募金箱の設置やチラシ配布を行った。また、環境省の協力のもとシマフクロウの巣箱背負い体験ワークショップを行った。
 - ・ 2/7 旭山動物園「雪あかりの動物園」で、来園者に対してシマフクロウおよびフクロウ類の室内講演、飼育ケージ前で個体を見ながら解説の解説を実施した。
- ※活動の詳細は HP のブログでも紹介されていますのでご覧ください。→



鳥学会の様子



ねむろバードランドフェスティバルの様子



ねむろバードランドフェスティバル巣箱背負い体験 WS の様子



○調査研究に関連する活動

- ・ 正会員に対して、シマフクロウの最新の生息状況等を把握するための調査を実施する際に必要となる調査機材の購入助成を実施した。

2025年度シマフクロウ・エイド保護・保全事業等にかかる実施報告

NPO法人シマフクロウ・エイド

当法人では、シマフクロウの保護・保全を適切で効果的に進める調査・研究を基盤として取組み、その成果・課題を生息環境や生息可能息の保全・回復、普及・啓発の推進に還元しています。2025年度は引き続き釧路総合振興局内において、給餌の利用状況調査、繁殖確認調査、巣箱内調査、補助給餌の管理、生息環境及び生息可能息の保全・回復、保全体制構築を推進し、関係地域に環境教育や啓発イベントを実施しました。

I 保護・保全事業

1. 調査・研究

(1) 給餌の利用状況調査

(期間) 通年 (場所) 釧路総合振興局内

(目的) 既存ペアが利用する給餌池における成長及び幼鳥の利用状況、繁殖行動等をモニタリングし、本種の生息環境の保全・再生や管理方法に成果を還元する。

(内容) 赤外線カメラ映像による24時間体制で、給餌池に飛来するシマフクロウペア及び幼鳥の採餌状況、利用頻度、繁殖行動など基礎データを取得した。



(2) 繁殖確認調査

(期間) 適期 (場所) 釧路総合振興局内

(目的) 既存ペアの繁殖状況の確認

(内容) 複数の既存ペアの繁殖確認調査を適期に実施した結果、1ペアから1羽の幼鳥の巣立ちを確認した。

(3) 巣箱内調査

(期間) 2月～5月 (場所) 釧路総合振興局内

(目的) 繁殖時の巣箱内における給餌の利用状況及び餌種の解明

(内容) 巣箱内にカメラを設置し、繁殖時の巣箱内における本種の行動や餌種等のデータを収集。

(特記) 今年は繁殖行動が見られ、2卵中1卵が孵化に成功し、幼鳥のふ化から巣立ち前まで断片的静止画像を取得できた。カメラの動作不具合が発生し業者と解決に向けて努力したが電気系と通信に当たる電波状況の安定が取れずに採餌状況を確認する映像は取得できなかった。

2. 補助給餌の管理

(期間) 通年 (場所) 釧路総合振興局内

(目的) 既存ペアの繁殖を補助する給餌池や井戸の管理

(内容) 活魚補充や死亡した活魚の除去対応、給餌池や井戸及び送水管の不具合時の

対応、日中のワシ類等の食害対策

(特記)

・幼鳥の給餌池への初飛来は9月6日であった。給餌池は成鳥ペア及び幼鳥1羽が強風等の天候を除き通年に渡り日没後～夜明け前後迄利用した。

・日中のワシ等による活魚の食害対策は、90×90 cmのフロートを5枚池に設置し食害を防止した。昨年に続き日中のワシ類の捕食や活魚死亡数が減少している。

・給餌池のフェンスの腐食が進み、暴風雪などで決壊が予想されるため根本的な補修が必要な状況である。

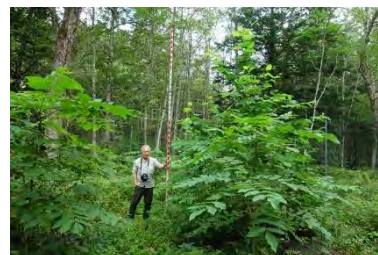
*昨年12月11日の暴風雪による風倒木で数か所電線が切断され15日午後まで停電が続き、その間、給餌池は発電機による通電でポンプを作動させていたが、長期間稼働していたため、不具合を起こしその間通水が出来ずに活魚のほとんどが死滅してしまい、またこの間に通水管も凍結してしまい、現在は別ルートで井戸から給餌池までの通水を行っている。

3. 生息環境及び生息可能息の保全・再生

(1) 生息可能息の保全・回復・拡大、及び保全体制高地の取り組み

(期間) 5～11月 (場所) 釧路総合振興局内

(目的) 本種の生息可能息の保全・回復・拡大と、関係地域の農林水産業の持続的保全、北海道知事が公約としたシマフクロウの森の再生の同時解決を目指した協定に基づく水源域の森林及び河川生態系の回復と、地域や関係機関による保全体制の推進。



植栽後に成長したダケカンバやカツラ他

(内容) 北海道、自治体、地元漁協、森づくりアドバイザー、地元小中学校と連携し、シマフクロウを環境指標とした水源林の再生を推進した。

(特記) 森づくり協定5年間の再生面積はのべ7200㎡となり、種子散布が予測される5年後以降は軽量級～重量級の種子が風や雨、河川、野生動物等によって拡散され、在来広葉樹種の生息域拡大が期待されている。植栽には、地元小中学生、漁協婦人部・青年部等、農林課、町民の皆様等のべ約330人が参画した。今年3月には協定を更新し今後5年間でさらに水源林再生域を拡大していく。

(2) 生息環境の長期保全に向けた取り組み

(期間) 4月 (場所) 釧路総合振興局内

(目的) 既存ペアの生息環境の長期的な保全

(内容) 長年モニタリングしている既存の複数ペアが生息する山地及び河川を含む包括的な環境の保全に向けて、関係機関と保全に関する制度確認を行った。

(特記) 森林関係機関において、希少野生動植物の生息が長年確認されているエリアを保護林として設定する制度があり、その活用が可能である事を確認出来た。

普及・啓発事業

当法人では、保護・保全事業の成果・課題を普及・啓発事業に還元し、関係地域の豊かな自然の継承と本種の生息環境及び生息可能域の保全・回復の同時解決を目指した人材の育成や環境・社会をより良い状態に戻し維持する仕組みづくりを推進している。今年度は、環境教育の継続、啓発イベントの第3回目を企画実施した。

(1) 森と海のつながりを考える学習の企画実施

(期間) 8月 (場所) 浜中町

(目的) シマフクロウが必要とする森と海をつなぐコリドーとしての川の働きや、上流の酪農業、河口の漁業との関係について、知り関心を高める授業を企画実施し、持続可能な社会の担い手を育成。



川や川の生きものを体験する子供たち

(内容) シマフクロウが主食とする実物の魚を目の前で観察しながらその生活史を楽しく学び、生きもの目線で地域の自然や一次産業の関係について学び合った。

(特記) 今年度から座学後に川体験プログラムを加えた結果、学習した内容への関心が自ら高まる児童が多かったと学校から評価を得た。

(2) 啓発イベント「魚からかんがえよう 森川湿原海をつなぐ町のみらい」の開催

(期間) 11月11日 (場所) 霧多布湿原センター

(目的) 健全な河川生態系を継承していく地域の仕組みづくり

(内容) 地域の豊かな自然の継承と一次産業との調和のために、大地と海をつなぐ川の重要な役割や変化に注目しながら、その生態系によって成り立つ酪農業、漁業との関係を深掘りし、参加者同士で川の未来についてアイデアを出し合う啓発イベントを浜中町、浜中漁協、散布漁協、浜中町農協と共催にて開催した。



魚が喜ぶ川づくりを考えた意見交換会

プログラム：

◎サケ科魚類専門家による基調講演「私たちがサケから学ぶこと、次世代に地域の生態系を残すには」 / 北海道大学名誉教授 帰山雅秀氏

◎R7年魚貝類調査報告 / NPO 法人シマフクロウ・エイド菅野直子

◎パネルディスカッション「酪農業(大地)と漁業(海)をつなぐ川の未来」

パネラー：浜中漁協専務、散布漁協専務、浜中町農協酪農技術センター長、帰山雅秀氏、NPO 法人シマフクロウ・エイド菅野正巳

◎参加者同士の小グループによる意見交換会「魚が喜ぶ川づくりのために出来る事」

その他、通年にわたり SNS やウェブサイト等を通じ、シマフクロウの生息環境の回復・保全に繋がる発信や、環境省シマフクロウとの共存ルールサイト等について広く普及を推進した。

令和7年度シマフクロウ保護増殖検討会

(3) シマフクロウの生息環境を拡げる取組について 議論のイメージ

背景

シマフクロウなど希少鳥類の生息環境を拡げる「流域改善」の取組が進みつつある

- 環境・森林・河川に関わる行政機関が進めている「流域改善」の事例を通して、取組（既存・新規）の促進につなげられないか
 - 取組において重要なポイント（主にソフト支援・小さな自然再生・ハード整備の好循環）
 - 今後取り組みたいこと

期待されること

- 共通した重要ポイントが抽出されることで、新規事例が進みやすくなる
- 各事例における取組が共有され、各事例の取組が相互的に促進される
- 取組主体の考え方やマインドなどが共有され、連絡調整や合意形成、連携がスムーズになる

今回扱う事例

説明	地域
環境省釧路自然環境事務所	標津川流域
北海道森林管理局日高北部森林管理署	沙流川流域
北海道開発局	石狩川流域 ※取組対象はタンチョウが主だが、全体構想ではシマフクロウにも言及 + 「ネイチャーポジティブを実現する川づくり」の方針

標津地域における生息環境整備の取組

これまでの実施状況

①底生魚類の生息環境の改善（餌資源の回復）

- 市民魚道・石倉の整備（R3年度・R4年度）
- 効果検証のための魚類調査（R5年度・R7年度）

③方向性の検討・合意形成

- シマフクロウ生息環境整備アドバイザリー会議（R4年度）
- シマフクロウ生息環境整備勉強会（R7年度）

②地域の仲間づくり

- 市民魚道を活用した普及啓発（R3年度・R4年度）
- 魚類観察会（R4年度）

各主体の取組状況の共有を行ったほか、構造物の改良案や、地域社会の理解・連携のあり方、市民魚道の復旧方針について意見交換した。また、新たに河川管理者や自治体などの参画を得た。

環境省は意見交換をふまえ諸要素を整理しつつ、市民魚道復旧・補強のための設計等を実施した。

- **市民や地域と魚道整備に取り組む目的**：暫定的な環境改善だけでなく、活動を通じ環境改善への地域の理解醸成を図ることも必要ではないか。
- **構造物の技術的検証**：過去の出水イベントや水流などを考慮し、部分的な補強や設置場所を変更。
- **市民魚道による魚類移動の効果**：市民魚道は底生魚類の回復がターゲット。設置効果を把握し、構造物管理者へ提案していくことも必要。
- **維持管理の技術的手法**：年に2回程度、地域にも参加を促しつつ維持作業を実施。
- **維持管理を行う主体**：市民魚道作業や普及啓発イベントなどを通じ、地域の主体形成を促していく。
- **地域との連携のあり方**：主体形成の促進とあわせ検討していく。

今後の取組

①底生魚類の生息環境の改善（餌資源の回復）

市民魚道の一部や石倉が機能不全。
また、ほかに改善が必要な工作物も新たにみつかると。
市民魚道や石倉による魚類生息への効果は明らかでない。

②地域の仲間づくり

普及啓発ツールの製作や地域関係者との関係構築を実施。
市民魚道の維持やさらなる活動について、地域に落とし込む仕組みはまだできていない。
地域に協働を訴えかける材料が不足しており、事例収集に努めたい。

③方向性の検討・合意形成

河川管理者、森林管理者、地域関係者など多様な主体と大きな方向性は共有できた。今後、方向性の具体化や具体的な取組内容の検討、地域産業などより広範な主体への理解醸成を図る。



過年度に整備した市民魚道は破損（R4→R6）

令和8年度実施計画（案） ※予算状況により一部縮減

①底生魚類の生息環境の改善（餌資源の回復）：市民魚道の維持・復旧作業を実施。

②地域の仲間づくり：市民魚道の作業を通じ、普及啓発や意識醸成を図る。また、市民向け観察会（サクラマス産卵の様子など）などイベントも検討。

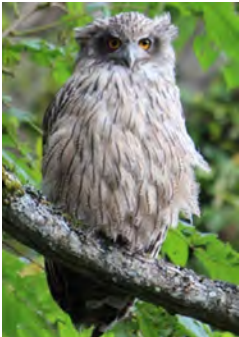
③方向性の検討・合意形成：合意形成等に必要関係者による会合を開催。関係者への説明等を実施。

【参考①】道東における生息環境整備の取組経緯について

- シマフクロウのヒナの標識数は増加傾向。「増やす取組」などから「拡げる取組」に拡充しているところ。
- シマフクロウの生息地拡大に向けて取組箇所の抽出を行った結果、標津川流域の支流がモデル対象となった。

◆シマフクロウについて

- 翼開長180cm（日本最大のフクロウ） 大木に営巣・餌は主に魚類 = **豊かな森と川のシンボル** 開発により一時期は約70羽に減少
- 給餌や人工巣箱の設置 (= 「**増やす取組**」) →100つがい (200羽 R4年度) **R7年度はヒナ標識61羽【図1】**
- 保護増殖事業計画 (H5年度 環境庁・農林水産省) 最終目標「**自然状態で安定的に存続できるような状態**」 **繁殖成功率は約30%**



◆「シマフクロウ生息地拡大に向けた環境整備計画」 (H24年度：北海道地方環境事務所、北海道森林管理局)

- **増やす取組から拡げる取組へ**「シマフクロウの生息に適する可能性の高い場所の抽出」「抽出した場所における環境整備」

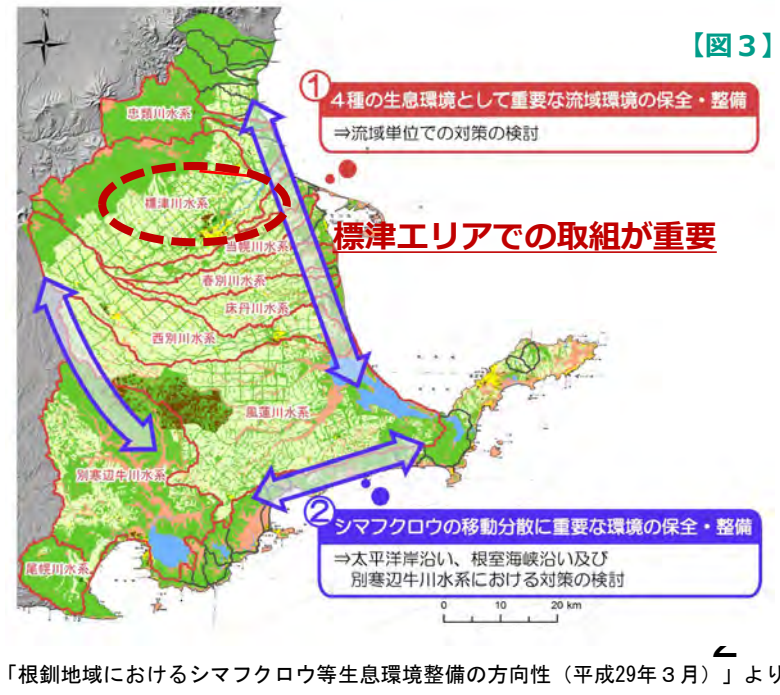
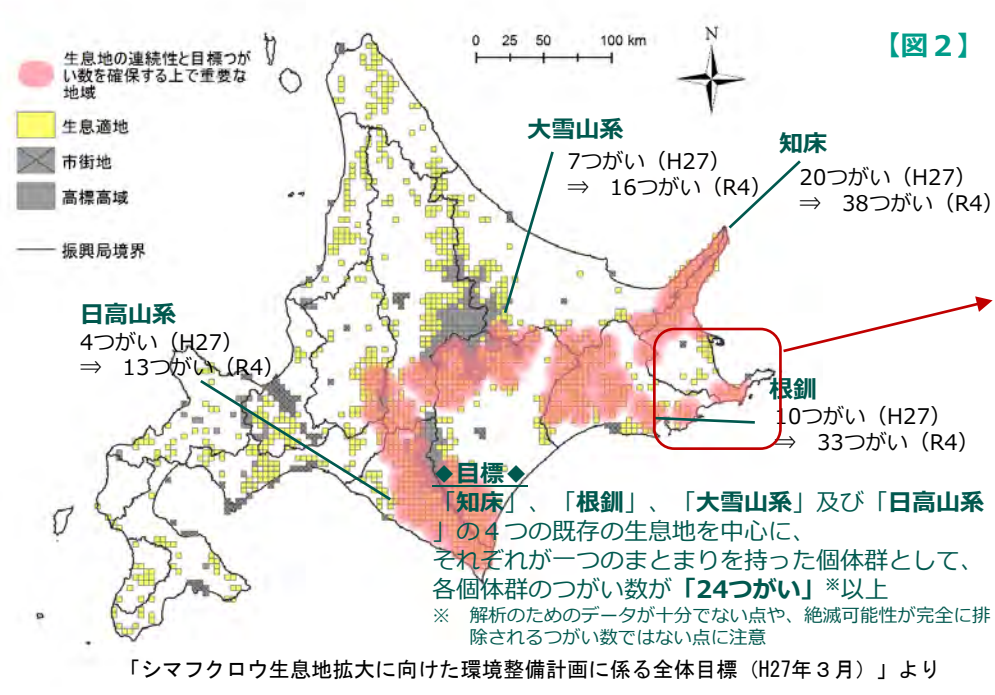
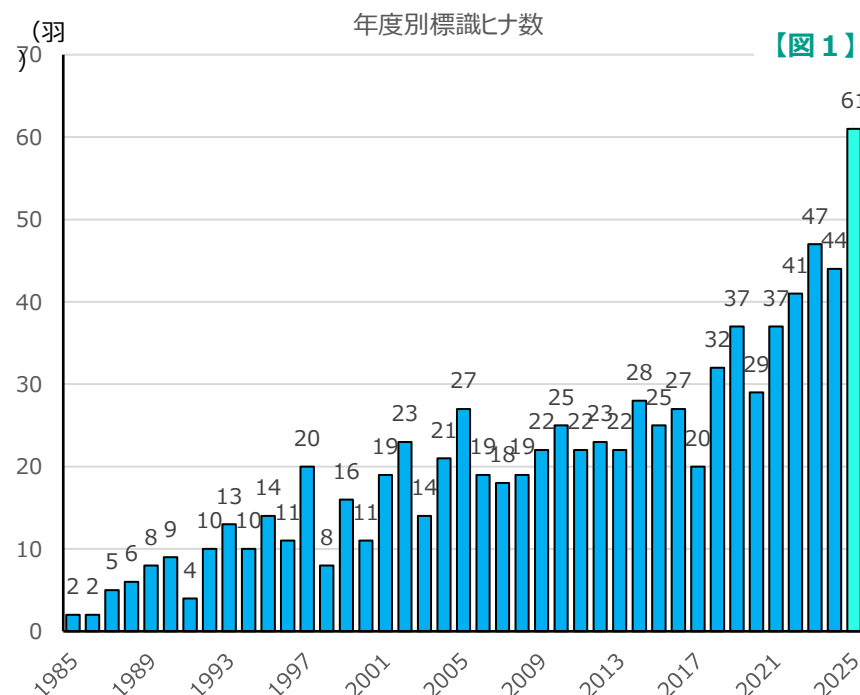
◆「シマフクロウ生息地拡大に向けた環境整備計画に係る全体目標」 (H27年度：北海道地方環境事務所)

- GISデータにより作成したポテンシャルマップにより、**具体的な取組候補地を抽出【図2】**
- 環境整備対象地の選択や具体的事業を進めるにあたって必要となる数値目標をとりまとめ
- 数値目標のほか**餌条件** (給餌から自然状態へ) や**営巣条件** (大木のある森) の**改善**、**遺伝的多様性の確保** (個体群間の交流) も重要



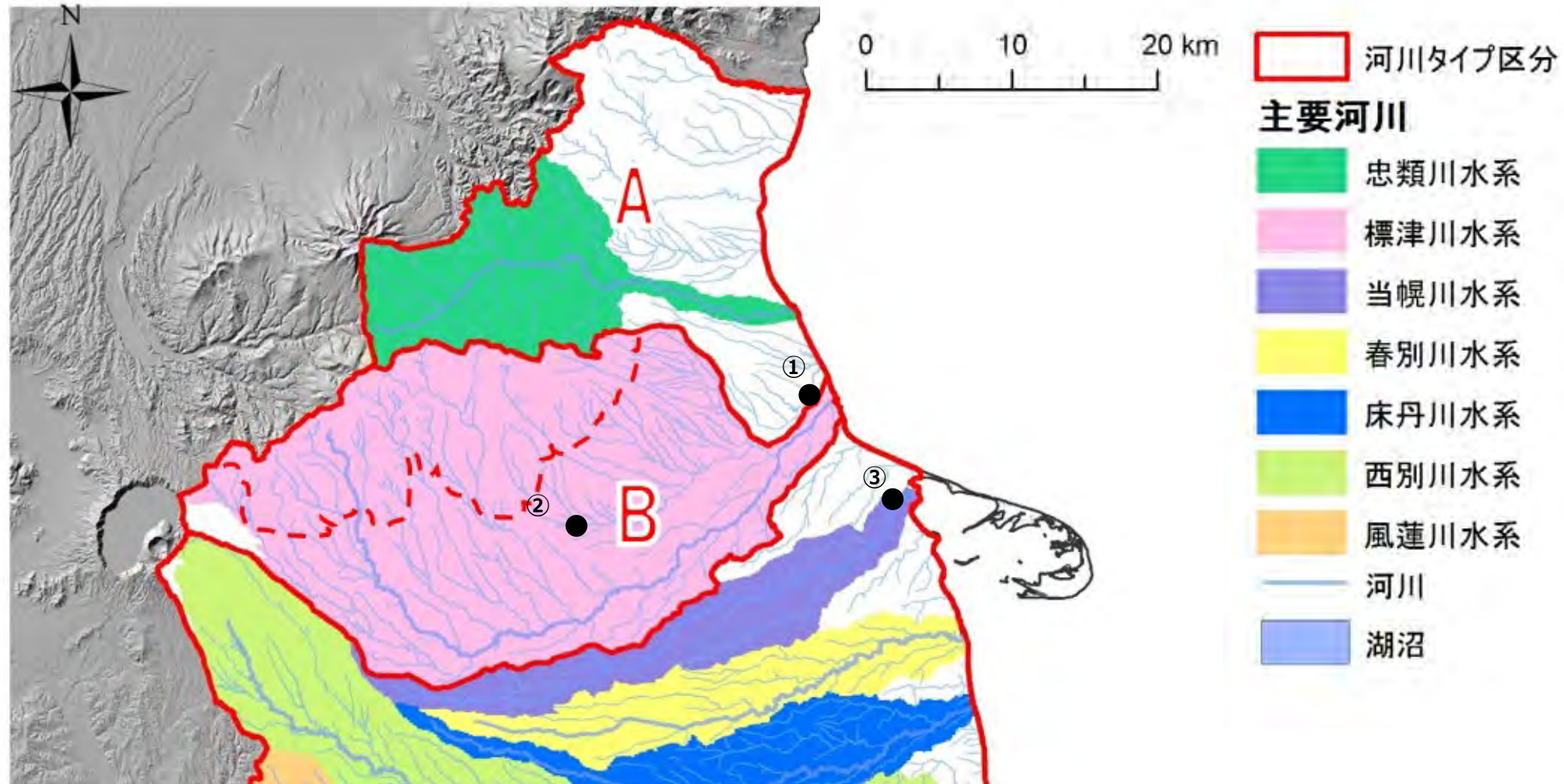
◆取組対象の検討 (H28年度～)

- 生息環境整備勉強会 (H29年度) で「**標津川流域**」が**取組候補**の一つに【図3】
- 既存工作物や魚類資源量、シマフクロウ生息状況等の調査・事業実施箇所の検討 (H30年度～R2年度) → 専門家ヒアリング、過去のシマフクロウ生息状況、魚類生息状況や工作物の設置状況などに鑑み、**標津川の支流が対象に**



【参考②】標津川流域周辺での環境省の取組状況

- ① 文化財の保存・再生事業との連携【ポー川】
- ② 市民魚道を通じた底生魚類生息状況の一時改善・地域の仲間づくり【標津川】
- ③ 企業による自然共生サイトの取組【当幌川】



普及啓発事業の取組

R7実施内容

- コンサドーレ札幌、旭山動物園など関係団体と連携した普及啓発イベントを継続して実施。
- ルールカードを製作・順次配布中。
- イラストパネルの解説テキストを作成（展示中）。
- ロールアップバナースタンドを製作中。
- リーフレットの改訂版を作成（参考資料1-5）。
- シマフクロウ域内保全・域外保全意見交換会において、情報発信のあり方について意見交換。
 - 関係者間で動物園イベントに手ごたえを感じつつ、シマフクロウとの適切な距離感なども正しく伝えられるような工夫が今後必要との意見。
 - シマフクロウの生息に必要な川・魚という観点で水族館との親和性も高いという意見。共存する社会づくりにも焦点をあて、新たな主体との協働を模索していく必要を感じた。

R8実施計画（案）

- これまで実施してきた関係団体とのイベントも継続して取組予定。新規イベントも可能な範囲で検討。
- このほか、新たに2件の普及啓発イベントを検討しているため、特出しで紹介。
 - ① 標津サーモン科学館におけるシマフクロウ展（【共催】標津サーモン科学館、釧路自然環境事務所）
サケが遡上する川づくりに取り組む標津サーモン科学館において、シマフクロウ保護増殖の取組や、サケが遡上する川づくりなど私たちの暮らしを豊かにする取組がシマフクロウ保護の取組と連動していることについて学んでもらうことを目的とする。今後、巡回展としての展開も図る。
実施時期：2026年4月下旬～秋まで
実施場所：標津サーモン科学館2階 特別展示スペース
展示内容：（第1章）シマフクロウとは？ （第2章）シマフクロウと私たち これまでとこれから （第3章）地域での取組
 - ② 釧路市動物園におけるイベント（【共催】釧路市動物園、シマフクロウ基金、【協力】釧路自然環境事務所）
シマフクロウを観察できる強みを活かし、アイヌの人々がコタンコロカムイとして畏敬の念を持ちながらシマフクロウと共に生活してきたことやシマフクロウの保護増殖の取組を学び、シマフクロウやシマフクロウがすむ環境の大切さを感じてもらうことを目的とする。
釧路市動物園キャッチコピー「カムイに会える動物園」や、改修された「アイヌ文化展示室」とも連動を図っていく。
実施時期（予定）：夏季（7月・8月の夏休み期間）の土曜日
イベント対象：親子
参加費：無料（入園料は別途）
イベント内容：
 - シマフクロウ講話
シマフクロウの生態、他のフクロウ類との違いに関する講話を行う。
環境省及び動物園からは保護増殖の取組や取組の歴史を紹介する。
羽（脱落したもの）にさわる、巣材をつくるなど体験型の内容も検討する。
 - 夜間のシマフクロウ観察
取組の紹介とあわせ、バックヤードで飼育されているシマフクロウの観察を行い、姿や鳴き声など五感でシマフクロウを感じてもらう。

【参考③】普及啓発事業の取組

- 多様な主体との連携（仲間づくり）にかかる考え方を整理し、ツールも整備している。

シマフクロウを守るためのビジョン（令和5年度）
「シマフクロウが棲める豊かな自然環境と
シマフクロウと共存する社会」
(シマフクロウを象徴とした流域連携・改善)

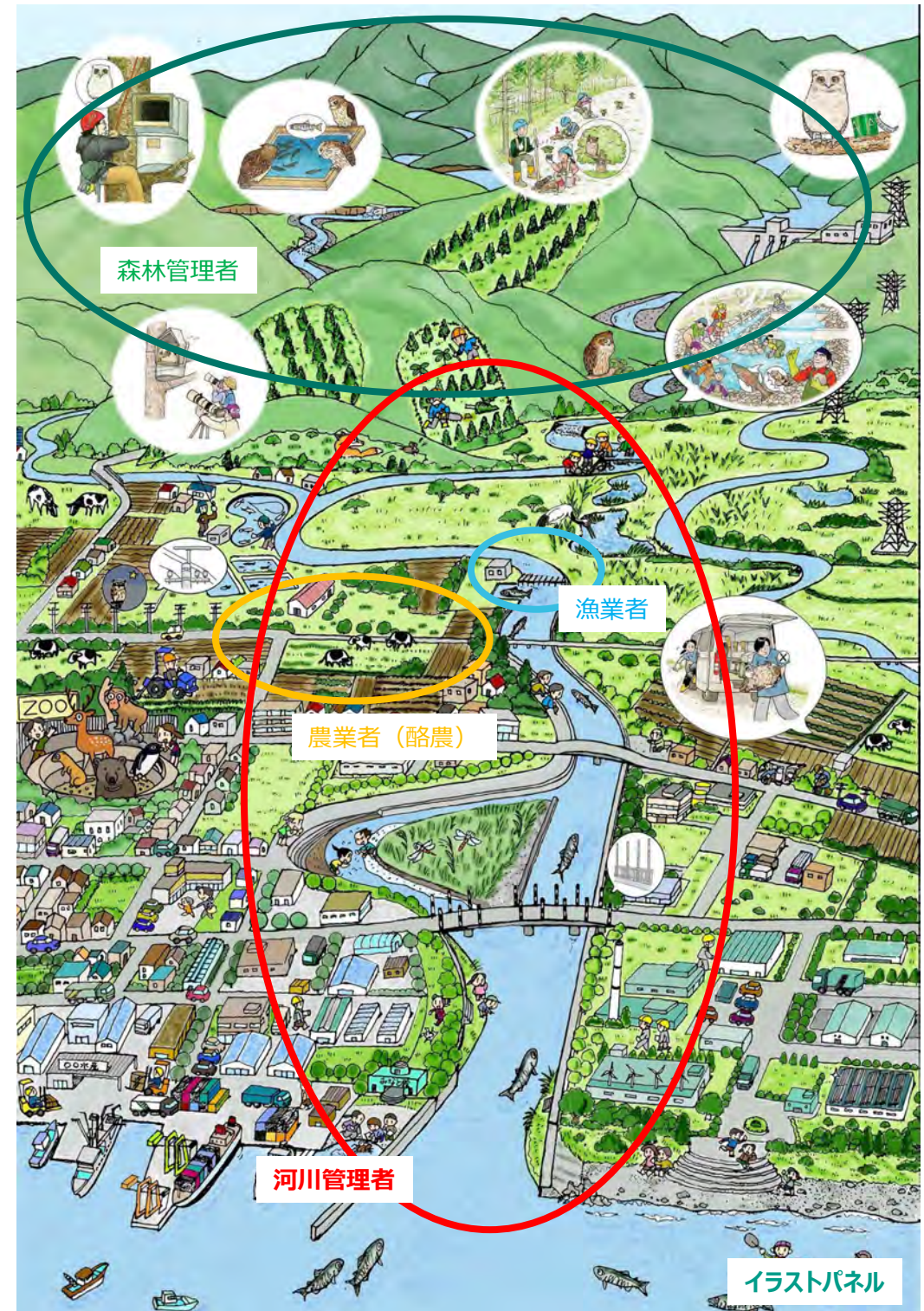
地域の経済・社会的な課題とのカップリングとして

～豊かな森・川・海をつくる、つながりを強化する～

- 植樹活動
 - 森林の回復による治水・砂防、河川水質の改善
- 魚道整備
 - 産卵床や河川の魚類資源量の増加
- 普及啓発・環境教育
 - 活動に理解・参加してくれる仲間を増やす

普及啓発媒体の制作（令和6年度）

- ✓ イラストパネル（右）の制作
- ✓ シマフクロウHP（下）の制作
- ✓ 共存ルールの策定・カードの配布



地域をつなぐ

— シマフクロウが自然状態で安定的に生息できる環境の保全・再生 —



林野庁 北海道森林管理局
日高北部森林管理署

振興公社との巣箱の設置作業
(R6.11)

日高北部森林管理署管内図



現庁舎



日高竜門の紅葉



にぶたに湖右岸の国有林野
(アイヌ共有林野)



北海道

日高北部森林管理署

上川地方

胆振地方

十勝地方

幌尻原生林

平取町

日高町
(日高地区)

日高町
(門別地区)

日高地方中部

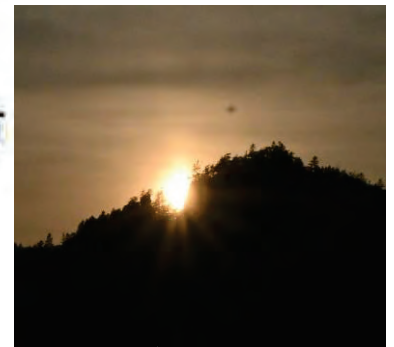
門別鼻南小島
(最低地点)



日高自然の森自然観察教育林



幌尻岳(ポロシリ)



オプシヌプリ

熊見山

芽室岳

1967峰
北戸蔦別岳

幌尻岳
(最高地点)

国有林野

沙流川流域にコタンコロカムイを呼び戻せ！

○日高地方は、シマフクロウの生息範囲の西端に位置

沙流川流域は、胆振地方や石狩地方にシマフクロウの生息域を再生していく上で拠点となる地域

○シマフクロウはアイヌ文化ではコタンを司るカムイ（コタンコロカムイ）

アイヌの伝統的生活空間であった北海道古来の森林や河川を再生する象徴

シマフクロウはコタンの周囲に営巣していたことを示唆

○21・アイヌ文化伝承の森再生プロジェクト

日高北部森林管理署では、シマフクロウの生息環境の保全・再生に向けて、平取町、平取アイヌ協会、(株)平取町アイヌ文化振興公社、環境省等と協働・連携し、管轄地域（沙流郡全域）において保護増殖の取組を展開

※平取町内の国有林野については、北海道森林管理局、平取町、平取アイヌ協会の三者協定である「**21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画-コタンコロカムイの森づくり推進のための協定書-**」に基づく取組として実施

21世紀・アイヌ文化伝承の森プロジェクト

日高北部森林管理署の協働と連携の取組

○プロジェクトの運営

- ・本協定や実施協定
- ・推進会議、作業部会、実務調整会議
- ・森林計画への反映

※平取町の事業の枠組とは相違があるので注意
(民有地での取組等)

○北海道古来の森林の再生

- ・シマフクロウの生息環境の再生
- ・広葉樹植栽試験地の設定
- ・フクロウ類による野鼠対策

○共用林野の設定と運用

(採取対象林産物)

- ・山菜、種子、きのこ
- ・しば、倒木、生枝、ササ等

○伝統工芸品材料の供給

- ・人工林の間伐で発生した広葉樹材を選別し適した材を伝統工芸品材料材として販売
- ・オヒョウ樹皮の供給
(現在は上川地方で国有林と道有林が分担して供給)
- ・資源の保護と育成に向けた技術的助言

○普及啓発・情報発信

- ・イメージボードの企画・制作
- ・局ウッディホールでの展示
- ・情報誌等への掲載

国有林の様々な制度や事業を活用してアイヌ施策を展開
(アイヌ共用林野はその一つ)

シマフクロウが自然状態で安定的に生息できる環境の保全・再生を目指して

○分野別の取組

1 天然林や河畔林の保全・再生

- ・令和6年度末に策定した国有林の森林計画において、自然度の高い天然林等の機能類型を「自然維持タイプ」に変更（+13,000ha）
- ・施業に際して河畔部や溪畔部の森林を保全

2 巣箱の設置及び管理（振興公社、環境省、日高北部署）

- ・管内13か所に巣箱を設置（民有地を含む・令和7年12月1日現在）

3 魚類の生息環境の改善－森と海をつなぐ－

- ・治山施設等の改良（日高北部署）
- ・頭首工への木製簡易魚道（市民魚道）の設置（振興公社）
- ・魚類調査（振興公社） 鷗川沙流川河川事務所からも情報協力

4 協働と連携

- ・関係機関や関係事業者との協力

5 普及啓発

- ・各種の情報発信

※振興公社・・・(株)平取町アイヌ文化振興公社

○これまでの実績と令和8年度の予定

取組事項	これまでの実績	令和8年度予定
------	---------	---------

1
天然林や河
畔林等の保
全・再生

【これまで】
・令和7年3月に策定した第7次地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画において、成熟しつつある主要な天然林の区域を「自然維持タイプ」とし大幅に拡充
+約13千ha → 管内計 約48千ha

【これから】
・次期計画編成に向けた課題の抽出
・現計画での未整理箇所を検討
【課題】
・施業に際して隣接した河畔林等の保全の徹底

2
巣箱の設置
及び管理
(日高北部署管内)

○巣箱の既存設置数13基 ()は令和7年度設置

土地 / 町域	平取町	日高町	小計
国有林野	7 (1)	3 (1)	10 (2)
民有地	3 (0)	0	3 (0)
小計	10 (1)	3 (1)	13 (2)

○新規設置予定2基
【平取町内】
・設置箇所未定×1 (振興公社)
【日高町内】
・国有林×1 (環境省)
(巣箱は日高北部署で調達済)

○設置者別

設置者 / 町域	平取町	日高町	小計
環境省	1	3 (1)	4 (1)
振興公社	9 (1)	—	9 (1)

○所有者別

環境省	林野庁	振興公社	計
2	3 (1)	8 (1)	13 (2)

※環境省の1基は民間企業の寄託



R6.11 日高町での環境省との設置作業

天然林や河畔林等の保全・再生



額平川上流のハルニレ群落



仁世宇川水系チマルラの沢と溪畔林



にぶたに湖右岸のトマツ-ミズナラ群落



山地斜面のカツラ大木



河畔のハルニレ

巣箱の設置及び管理



平取町内での公社・環境省との合同設置(R7.11)



平取町内での公社との巣箱設置作業前の「カムイノミ」(R6.11)



平取町内での巣箱のつり上げ作業(R7.11)



日高町内での環境省との合同設置(R7.11)



○ これまでの実績と令和8年度の予定

取組事項	これまでの実績	令和8年度予定
------	---------	---------

3 魚類の生息環境の改善 - 森と海をつなぐ -

- 頭首工への木製簡易魚道の設置等（振興公社）
 - ・ トウナイ川（R4年度）
 - ・ アベツ川小平第1（R5年度）流出【令和7年度】
 - ・ アベツ川小平第1へのバタ角再設置
 - ・ トウナイ川市民魚道の補修
- 治山施設等改良
 - ・ アベツ川（S60）谷止工への魚道の設置（R6年度）【令和7年度】
 - ・ 仁世宇川水系チマルラの沢の谷止工への魚道設置
 - ・ 仁世宇川水系シュータの沢の谷止工に係る魚道の測量設計
 - ・ シュータの沢の林道横断箇所改良（碎石ネットで段差をスロープ化）
- 成果
 - ・ アベツ川では、バタ角の設置と治山ダム改良の効果に、大規模出水も相まって、サクラマスが遡上し、魚道上流側で40年ぶりに産卵したことを確認（残留ヤマメも繁殖に参加）

- 魚類調査の継続
 - ・ 振興公社による採捕調査
 - ・ 日高北部署のGoproによる目視観察
 - ・ 鷗川沙流川河川事務所からの情報提供
 - ・ その他機関や釣人からの情報収集
- 頭首工への木製簡易魚道の設置等
 - ・ アベツ川小平第1のメンテナンス
 - ・ アベツ川小平第5改良に向けた調整（平水時の遡上が困難な施設）
- 治山施設等の改良
 - ・ 魚道設置（シュータの沢谷止工）
 - ・ 治山施設改良測量設計（検討中）



R7年度施工・チマルラの沢谷止工の魚道

○ 魚類の生息環境の改善－森と海をつなぐ－

振興公社の設置作業に署も参加



アベツ川下流の小平第一頭首工の改良 (R7.6)



アベツ川S60谷止工の引込式石積魚道 (R6年度設置)



アベツ川上流でのサクラマスの産卵行動 (R7.9)

画像提供：(株)平取町アイヌ文化振興公社

アベツ川上流で産卵したサクラマス (R7.9)

(治山ダムより上流への遡上は40年ぶり) 10

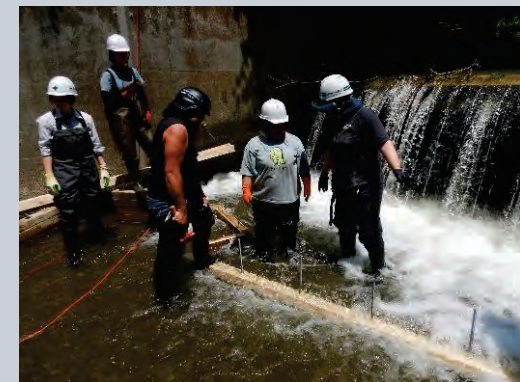
○これまでの実績と令和8年度の予定

取組事項	これまでの実績	令和8年度予定
------	---------	---------

4 協働と連携

【これまでの実績】
 【平取町・振興公社・河川事務所等との協働・連携】
 ○木製簡易魚道の設置（R4-7年度）での共同作業
 ○河川障害物・溪相・魚類等の調査（ - R7年度）
 ○巣箱の設置
 ○プロジェクトに係る事項の森林計画への反映作業
 ○シマフクロウ勉強会の開催（講師:竹中健氏）
 R7.1.22 日高北部署会議室で開催
 道室蘭建設管理部、鶴川沙流川河川事務所、日高道路事務所、北海道電力日高水力センター及び新ひだか自然保護官事務所からも参加
 ○平取町沙流川流域地域文化保全協議会魚道分科会での関係機関連携との情報や課題の共有と検討、魚類調査結果の共有
 【令和7年度実績】
 ○21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画に係る実施協定（R7.5.15締結）に基づく実施計画等の策定予定

○平取町沙流川流域地域文化保全協議会魚道分科会での関係機関との課題や情報の共有と検討、魚類調査結果の共有の継続
 ○会議・現地検討会等での情報共有の徹底
 ○河川生態系の連続性の確保や上下流連携
 ○流域・支流単位での一貫性のある取組を継続



R7.6 アベツ川市民魚道再設置作業

5 普及啓発

【これまでの実績】
 ○雑誌「河川」（2023.8）、「森林と林業」（2024.1）、情報誌「林野」（2024.8.VOL.209）等への寄稿
 ○「21世紀・アイヌ文化伝承の森イメージボード」の企画・制作（R5-6年度）
 【令和7年度実績】
 ○（一社）北海道森林整備公社「森林保護No.365」に取組紹介「コタンコロカムイを呼び戻せ！」を寄稿
 ○平取町議会と日高町議会の各森林・林業・林産業活性化議員連盟の現地視察や研修会で取組を紹介
 ○「早春の河畔林イメージボード」の企画・制作
 ○北海道森林管理局ウッデイホールでの展示（12月）
 「イウォロって何だろう？～イウォロ再生の取組～」

○これまでの情報発信を継続
 ○「機会」と「場」を逃さずに発信



R7.12 平取町沙流川流域地域文化保全協議会魚道分科会第2回会合

地域や関係機関との協働・連携による相乗効果の極大化



シュータの沢での合同魚類調査 (R6.11)



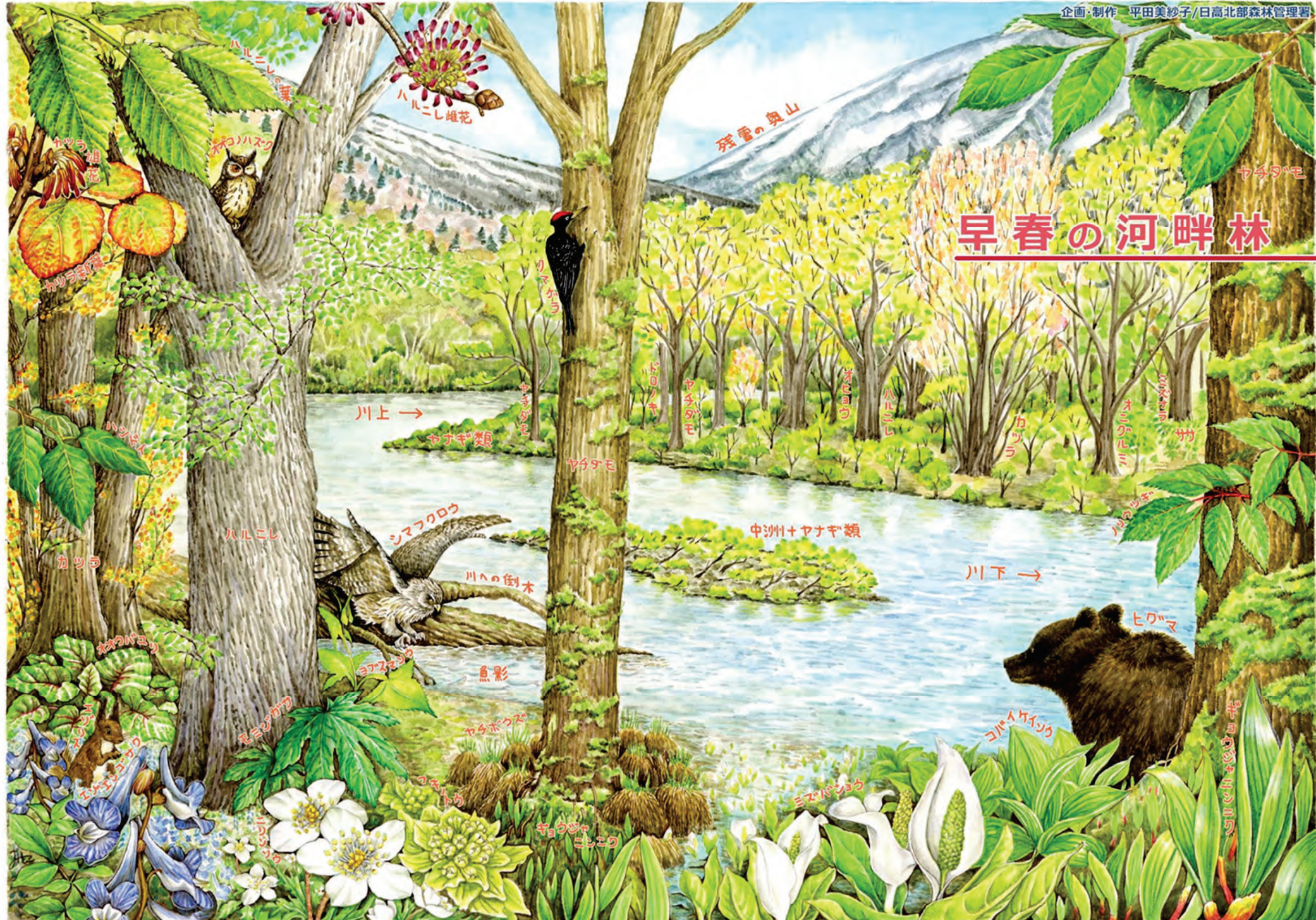
アベツ川・小平第5頭首工での合同魚類調査(R7.9)



シマフクロウ勉強会 室蘭開発建設部等からも参加(R7.1)



チマルラの沢谷止工の魚道現地検討会(R7.12)
平取町沙流川流域地域文化保全協議会魚道分科会



早春の河畔林

早春の河畔林イメージボード 企画・制作 平田美紗子/日高北部森林管理署
(かつての沙流川や額平川の河畔林や平地林をイメージするために企画・制作)

コタンコロカムイを呼び戻せ！

野木 宏祐

1 コタンコロカムイ

シマフクロウは、世界最大のフクロウ目の種であり、国内では北海道の道東を中心に生息しています。和名の「シマフクロウ」は、蝦夷が島（＝北海道）に生息することに因んだものですが、アイヌ語での名称は「コタンコロカムイ」で「集落（コタン）を司る神（カムイ）」を意味し、河川沿いに形成され分布するアイヌの各コタンの周囲に生息していたことが窺えます。シマフクロウは、かつては全道で生息していたことが記録されていますが、開発の影響等により、一時期、その生息域は、道東を中心としたエリアに縮小していました。その後、環境省と農林水産省が実施している保護増殖事業等の成果もあって、近年では道東のみならず上川地方と日高地方まで生息域が回復しつつあります。

2 沙流川流域の重要性

日高北部森林管理署は、日高地方西部に位置する沙流郡の全域（日高町及び平取町）を管轄しており、管内の大部分は、日高山脈北部を水源域とする一級河川・沙流川の流域となっています。沙流川流域は、回復しつつあるシマフクロウの生息域を、さらに胆振地方や石狩地方へと広げていく拠点となる位置にあたるとともに、古くからアイ

ヌ文化が栄えてきた地域であり、平取町では、アイヌ文化を継承・発展させていくための多様な活動が、現在も活発に行われています。

当署では、管内のこうした地域特性を背景として、環境省北海道地方環境事務所や平取町との「協働」と「連携」により、沙流川流域にシマフクロウを呼び戻すべく、シマフクロウが自然状態で安定的に生息することができる環境の再生に取り組んでいます。

平取町内では、平成25年に北海道森林管理局、平取町及び平取アイヌ協会が締結した三者協定である「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画」（以下「再生計画」という）に基づいて、国有林野を活用したアイヌ文化の継承活動が展開されており、シマフクロウを呼び戻す取組は、再生計画のテーマの一つである「北海道古来の森林の再生」の一環と位置付けられています。再生計画の副題は、「一コタンコロカムイの森づくり推進のための協定書一」であり、シマフクロウは、アイヌ文化を育んできた北海道古来の森林や河川からなる豊かな生態系の再生の象徴となっています。

平取町における取組は、アイヌ文化振興等の担い手として町から事業を受託している（株）平取町アイヌ文化振興公社（以下「振興公社」という）が、専門家（シマフクロウ環境研究会の竹中健氏）

の指導を受けて実施しており、当署も再生計画及び保護増殖の取組と位置付けて参画しています。

また、平取町に隣接する日高町内においても、平取町側での取組と効果的に連動させる形で、環境省北海道地方環境事務所と当署が協働と連携の取組として実施しています。

3 シマフクロウを呼び戻すための多様な取組

具体的な取組として、生息環境となる成熟した天然林や河畔林・溪畔林の保全、シマフクロウが営巣する大径木の樹洞の代替となる大型のFRP製巣箱の設置、シマフクロウの主食となる魚類の生息（移動、遡上、繁殖等）環境の再生等を実施しています。

(1)天然林や水辺の森林等の保全

当署管内の国有林野（約10万2千ha）のうち、過去の人為の影響が比較的小さく、まとまった面積のある天然林等（約4万8千ha）については、国有林野の機能類型を「自然維持タイプ」に区分して、自然環境の保全を第一とした管理経営を行っています。そのうち、保全上、特に重要な森林については、「日高山脈森林生態系保護地域」等の保護林（約3万2千ha）として設定し厳格に保護・管理しています。

また、国有林野事業では、溪流沿い等の水辺の森林（溪畔林や河畔林等）については、一定の幅を保護樹帯として設定するなどして、水辺域の生態系の保全に努めています。

今後、これらの森林が林齢を重ねてさらに成熟していくなかで、シマフクロウが営巣できる樹洞のあ

る大径木や魚類を捕獲する際の止まり木などが確保されていくことを期待しています（写真-1）。

(2)棲み家の確保

天然林や水辺の森林の保全に取り組んではいるものの、現状では、全長65～70cm、翼開長180cmに達するシマフクロウが営巣できる大径木は少なく、こうした大径木が潤沢にある状態まで森林が成熟するには、まだ長い年月（最近の研究では、北海道の主要樹種であるミズナラやハリギリの寿命は700年以上とされている。）を要します。このため、当面の間、樹洞を代替するFRP製の大型巣箱（高さ90cm×直径64cmの円筒形）を採餌場となる水辺に近い木などに設置する取組を進めており、令和7年11月末時点で、平取町内に10基、日高町内3基の計13基（民有地3基、国有林野内10基）の巣箱を設置しています。

巣箱の設置箇所は、魚類の生息密度や水量等を考慮して営巣可能性が高い箇所を専門家等と調査・調整して選定しています。設置作業は、平取町内では振興公社が主となって実施し、当署も設置箇所の選定や設置作業で協働・連携しており、日高町内では、環境省北海道地方環境事務所と当署が役割を分担して共同で実施しています（写真-2）。

(3)魚類の生息環境の改善

－40年ぶりとなるサクラマス産卵－

シマフクロウの英名は、「fish owl」で、その主食は魚類です。その生息・繁殖環境として魚類が遡上して繁殖できる河川環境が不可欠です。沙流川本流の二風谷ダムや支流・額平川の平取ダムに



写真-1 額平川の上流部の河畔林



写真-2 振興公社との巣箱の設置作業前の「カムイノミ（神への祈り）」

は魚道が設置されていますが、沙流川水系の本・支流には、頭首工（取水堰）や治山ダム等の河川工作物も多数設置されており、魚類の遡上や移動の妨げとなっています。

そのような状況を少しでも改善するため、効果の見込まれる一部の支流を対象に、中・下流部の頭首工には、振興公社が木製の簡易な魚道（市民魚道）を設置し、上流に位置する国有林野内の治山ダムには、当署が魚道を設置することで、主にサクラマスやアメマスなどの回遊魚が遡上できる区間が増加するよう支流単位で取り組んでいます。

令和7年7月末時点で、沙流川支流の2か所（アベツ川及びトウナイ川）の頭首工に市民魚道が設置され、これに対応して当署では、令和6年度にアベツ川上流の治山ダム1基に引込式石積み魚道を設置しています。

アベツ川では治山ダムへの魚道設置直後から、ヤマメ（サクラマスの残留タイプ）やアメマスが治山ダムから約1.7km上流まで遡上するようになりました。当該治山ダムの下流には、増水時以外は溯上できない別の障害物はあるものの、今年9月には、実に40年ぶりとなる治山ダムの上流側でのサクラマスの産卵行動を確認することができました。アイヌ文化の振興に係る多様な活動のフィールドとなっているアベツの森（亜別国有林）は、海とのつながりを取り戻しつつあります（写真-3、4）。

令和7年度には、沙流川支流の仁世宇川水系においても、治山ダムへの魚道設置工事及び魚道設置に向けた調査設計を各1か所ずつ実施している

ところです。仁世宇川水系や額平川水系など沙流川水系のうち水量が豊富な支流は、今後の取組によって、サクラマス等の回遊魚の上流への遡上が期待できるほか、豊かな河畔林も残されていることから、こうした水系を重点対象として各取組を展開していく方向で調整しています。

環境省北海道地方環境事務所や平取町・振興公社との協働と連携による取組を進めているところですが、特に、河川環境の再生については、上・下流での連携実施や北海道開発局鶴川沙流川河川事務所をはじめとする多くの関係機関や団体との調整と連携が重要です。このため、「21世紀・アイヌ文化伝承の森プロジェクト推進会議」や「平取町沙流川流域地域文化保全協議会」等の場を通じて、目標や進捗情報の共有、実務調整の充実化等を図っています。現場での取組は、実に地道なものです。長期的には、水産資源の保護育成等にも寄与することで、取組に対する広範な理解と支持につなげて行きたいところです。

(4) 幅広い連携体制づくり

近い将来、日高地方におけるシマフクロウの営巣つがい数が増加した場合には、橋梁や電力施設との接触、車両との衝突等の防止対策なども重要になります。

今年1月には当署において、専門家を講師とした学習会を開催し、北海道開発局日高道路事務所や北海道電力（株）日高水力センターなどの参加を得るなど、関係機関との連携体制づくりにも取り組んでいます。



写真-3 アベツ川下流部の頭首工に設置した木製の簡易魚道（市民魚道）



写真-4 アベツ川上流部の治山ダムに設置した引込式石積み魚道

4 現代の「コタンコロカムイ」として

令和7年5月には、当署と平取町の間で再生計画の実施に係る協定を締結しました。今後、当該協定に基づいてシマフクロウの生息環境の再生計画を両者共同で策定し、これまでの取組を礎として、目標、対策、工程等を設定していく予定です。

沙流川流域でのシマフクロウを呼び戻す取組は、単に、シマフクロウの数を増やすということではなく、魚類の生息環境を改善して森林と海をつなぐとともに、成熟した森林（老木・枯死木に依存する生物種も生息できる森林）や水辺の森林を保全・再生するものです。

そのことは、アイヌ文化を育んできた北海道古来の自然環境を取り戻していくことであり、だか

らこそ、再生計画の副題がそうであるように、シマフクロウは、アイヌ文化の継承や再生の取組を象徴しているのです。

そして、これまで見てきたように、シマフクロウを呼び戻すためには、流域・地域ぐるみの取組が極めて重要です。その「協働と連携のネットワーク」は、文化や産業の振興、住民福祉の向上など、様々な分野で流域社会に寄与し得るものでしょう。そうした意義も含めて、シマフクロウを現代の「コタンコロカムイ」として呼び戻したいものです。

夕暮れ時の沙流川流域に、シマフクロウの鳴き声が静かに響き渡ることを願っています。
(林野庁北海道森林管理局 日高北部森林管理署)

シマフクロウワーキンググループ等の整理（案）について

- ・「域内保全・域外保全意見交換会」は情報交換という一定の役割を終えてきている。
 - ・「普及啓発WG」はウェブサイトやルールが完成し、一定の役割が終了。
 - ・シマフクロウ保全の取組が「拡げる取組」へ拡充してきている。
- 「守るためのビジョン」（右）に基づき、2本のワーキンググループに統廃合したい。

★統廃合の是非、新WGにおける特に重要な検討事項、構成員についてコメントいただきたい。

シマフクロウが棲める豊かな自然環境と シマフクロウと共存する社会



①シマフクロウ給餌事業等に関する有識者会議

構成：生息域内保全関係者
内容：給餌事業などシマフクロウ保全事業の情報共有や事業のあり方に関する意見交換

②放鳥候補地検討WG ※「拡げる取組」と連動するものと整理

構成：生息域内保全関係者
内容：主に釧路市動物園で飼育中の保護個体をはじめ、今後、保護個体の放鳥を実施する際の候補地等について検討

③シマフクロウ域内保全・域外保全意見交換会

構成：生息域内保全関係者及び域外保全関係者（シマフクロウ飼育園）
内容：それぞれの取組状況の共有や普及啓発等に関する意見交換

④シマフクロウ普及啓発WG

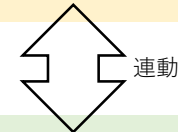
構成：生息域内保全関係者及び一部域外保全関係者（シマフクロウ飼育園の一部）
内容：普及啓発事業に関する検討

シマフクロウ保護増殖検討会

下部組織・詳細検討
報告

シマフクロウと共存する社会づくりワーキンググループ

構成：生息域内保全関係者及び域外保全関係者（シマフクロウ飼育園）
内容：生息環境整備や普及啓発、放鳥事業、域外保全事業のあり方に関する検討、域内・域外それぞれの取組状況の共有
※特に、域外保全事業のあり方、シマフクロウが受け入れられる社会づくりの手法が喫緊の課題か



シマフクロウが棲める豊かな自然環境づくりワーキンググループ

構成：生息域内保全関係者
内容：給餌事業、標識調査、巣箱設置、事故対策・傷病救護、生息環境整備、普及啓発など特にシマフクロウ域内保全事業の情報共有や事業のあり方に関する検討
※特に、給餌事業の適正化やモニタリングのあり方が喫緊の課題か

※1 いずれも非公開 ※2 裏面に構成員記載

変更前（R7年度検討会前）

①シマフクロウ給餌事業等に関する有識者会議	
齊藤 慶輔	株式会社猛禽類医学研究所
菅野 正巳	特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド
竹中 健	シマフクロウ環境研究会
外山 雅大	根室市歴史と自然の資料館
早矢仕 有子	北海学園大学
山本 純郎	北海道シマフクロウの会
②放鳥候補地検討ワーキンググループ	
齊藤 慶輔	株式会社猛禽類医学研究所
竹中 健	シマフクロウ環境研究会
外山 雅大	根室市歴史と自然の資料館
早矢仕 有子	北海学園大学
山本 純郎	北海道シマフクロウの会
③シマフクロウ域内保全・域外保全意見交換会	
※有識者の指定なし	
④シマフクロウ普及啓発ワーキンググループ	
齊藤 慶輔	株式会社猛禽類医学研究所
竹中 健	シマフクロウ環境研究会
早矢仕 有子	北海学園大学
坂東 元	旭川市旭山動物園
藤本 智	釧路市動物園



変更後（案）

シマフクロウと共存する社会づくりワーキンググループ	
齊藤 慶輔	株式会社猛禽類医学研究所
竹中 健	シマフクロウ環境研究会
外山 雅大	根室市歴史と自然の資料館
早矢仕 有子	北海学園大学
坂東 元	旭川市旭山動物園
藤本 智	釧路市動物園
松本 潤慶	公益財団法人日本野鳥の会
山本 純郎	北海道シマフクロウの会
シマフクロウが棲める豊かな自然環境づくりワーキンググループ	
齊藤 慶輔	株式会社猛禽類医学研究所
菅野 正巳	特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド
竹中 健	シマフクロウ環境研究会
外山 雅大	根室市歴史と自然の資料館
早矢仕 有子	北海学園大学
松本 潤慶	公益財団法人日本野鳥の会
山本 純郎	北海道シマフクロウの会

※ いずれも事務局は環境省

※ 議題に応じ、シマフクロウ調査員や行政機関などのオブザーバー参加あり

※ 議題に応じ、委員は柔軟に入れ替え運用することも検討していく

環境研究総合推進費 AD会合資料 令和7年12月16日

課題番号： 自然共生領域 4MF-2401

体系的番号： JPMEERF20244M01

研究課題名：

生殖細胞保存による希少猛禽類の域外保全の推進

重点課題： 主：【重点課題⑬】 生物多様性の保全に資する科学的知見の充実や
対策手法の技術開発に向けた研究
副：【重点課題⑭】 生態系サービスの持続的な利用やシステム解明に
関する研究・技術開発

研究代表者： 村山 美穂

研究代表機関：京都大学

研究実施期間：令和6年4月～令和9年3月

研究体制：サブテーマ1 金子武人（大阪公立大学）、猛禽類医学研究所

サブテーマ2 村山美穂（京都大学）、国立環境研究所

研究協力機関 NPO法人どうぶつたちの病院沖縄

1. 研究の目的：生息域外の遺伝資源保全

頂点捕食者である大型猛禽類は危機的状況



域内保全
(野生下)

生息適地の減少
餌不足
高病原性鳥インフルエンザ
鉛中毒



One Plan Approach



域外保全
(飼育下)

つがい形成時の遺伝的背景？
少数の繁殖つがい
遺伝的多様性の減少・近親交配
飼育スペース



生殖細胞保存

遺伝情報を付加した生殖細胞の安定保存により
将来の保護増殖に向けた遺伝資源の確保に貢献

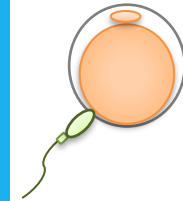
2. 本研究の目標

保存マニュアルの作成と遺伝情報アーカイブの整備により
生殖細胞による長期的かつ多様な遺伝資源保全を実現



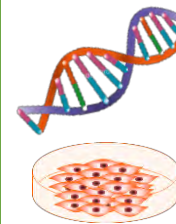
サブテーマ1：希少猛禽類の生殖細胞の保存技術の確立
による保存マニュアルの作成

大阪公立大学、京都大学、猛禽類医学研究所



サブテーマ2：保存生殖細胞の
遺伝情報アーカイブの整備

京都大学、国立環境研究所



遺伝情報を付加した
生殖細胞の長期保存
国立環境研究所（研究協力機関）

ヤンバルクイナの研究成果提供

NPO法人 どうぶつたちの病院 沖縄（研究協力機関）



3. 内容：チーム構成

PO：奥田 敏統 AD：小菅 正夫、坪田 敏男、前田 琢

研究総括

村山 美穂

サブテーマ1 生殖 細胞保存

大阪公立大学
京都大学
猛禽類医学研究所

- ・金子 武人（リーダー）：精子保存法の開発および受精能評価
- ・藤原 摩耶子：卵巣および未成熟卵子の保存
- ・齊藤 慶輔：生殖組織採取条件検討および採取法の確立

サブテーマ2 遺伝 情報整備

京都大学
国立環境研究所

- ・村山 美穂（リーダー）：遺伝的多様性解析、年齢推定、
個体の特性と情報の関連
- ・大沼 学：繁殖関連遺伝子の多様性解析

研究協力

京都大学
猛禽類医学研究所
どうぶつたちの病院 沖縄

- ・佐藤 悠：ゲノム情報解析
- ・渡邊 有希子：生殖組織採取条件検討の技術支援
- ・長嶺 隆、中谷 裕美子：精子採取法、卵巣摘出法の技術支援

4. 環境政策への貢献

重点課題 ⑬ 生物多様性の保全に資する科学的知見の充実や
対策手法の技術開発に向けた研究

生物多様性国家戦略2023-2030の、1-6-5 絶滅危惧種の生殖
細胞・種子保存に貢献

生態系の頂点に位置する希少猛禽類の、遺伝情報も付加した
生殖細胞バンクの整備により、効果的な遺伝資源保存を実現

⑭ 生態系サービスの持続的な利用やシステム解明に
関する研究・技術開発

生殖細胞保存、繁殖関連遺伝子、年齢推定等の技術は、
他の希少種へも応用可能

- 各種の保護増殖事業検討会等での情報提供・保全施策への反映
- 希少種保全手法の選択肢・可能性を広げる

令和6（2024）年度

令和7（2025）年度

令和8（2026）年度

サブ テーマ1 生殖細胞 保存

- ・ 生殖組織回収条件の確立
- ・ 精子・卵巣保存法の開発

- ・ 精子の受精能力の検討
- ・ 卵子の発育能力の検討
- ・ 他の猛禽類への応用

- ・ 卵巣培養法の開発
- ・ 精子・卵巣保存法の確立
およびマニュアル化
- ・ **精子・卵巣の保管**

サブ テーマ2 遺伝情報 整備

- ・ **全ゲノム解読**
 - ・ 遺伝的多様性の評価
 - ・ 近交度の解析
 - ・ 有効集団サイズ
 - ・ 絶滅リスク評価


- ・ 機能遺伝子の特定
- ・ 繁殖に影響する変異の特定
- ・ **DNAメチル化率から年齢推定**

- ・ **遺伝情報アーカイブの整備**
生殖細胞採取個体ごとの
血縁関係、機能遺伝子型、
年齢

相互補完



研究課題のウェブサイト



令和6年度環境研究総合推進費(令和6年～8年度)
生殖細胞保存による希少猛禽類の域外保全の推進



> [News](#)

> [Members](#)

<https://www.omu.ac.jp/vet/las/erca/>